

2017年6月23日

授業に対する学生のコメントと教員による応答

まず、今回の講義の要約は、平井先生宛の問題提起についてのディスカッションが行われた。地方の活性化や東京一極集中といったテーマで学生側からも意見が出た。

そして、今回の講義での主張に対する意見は、行政規模での課題解決を考えるのではなく、自分たちには何ができるかを考えるところから取り組むべきだという主張に賛成である。行政に任せるという考え方では、自分たちで考えることを放棄することになってしまう。地方で生活をしているわたしたちが、身近な視点で、できることから取り組むことが重要だ。そうすることで、自助、共助、公助という流れで課題解決につながっていく。

今回、これまでのまとめの講義であって、どの講義内容にも言えるのは、知識を身につけるということである。レポートの書き方については、レポートを書くための仕方の知識を身につける、読書のすすめでは、本を読むことで教養、知識を身につける、饗場先生の授業では政治に関心を持つことということであり、関心を持つためには政治に関する知識を身につけなければならない。知識を身につけるために1番有効であるのは本を読むことである。映像を見ることよりも文を読むことの方が情報量が多いからである。私は本をたくさん読むことで沢山の分野の知識を身につけていきたい。

西新町の開発問題の議題が印象に残った。以前この問題についてニュースで見たことがあり興味があったのと、実際にその近くに住む人の意見が聞けたからだ。

私も徳島県は交通整備からすべきだと感じている。道が狭いことや信号の変わるタイミングがよく分からず、休日駅前や裁判所近くはよく渋滞しているのをよく見かけるからだ。また、吉野川沿いの道は一車線しかなく反対車線との距離が近いので渋滞になりやすく比較的危険な道だ。これは最近できたイオンモールに行く道も当てはまる。これらの整備をきちんと行っていないと、何かを新しく建てても行くまでに時間がかかり徳島に観光に

コメント [y1]: もちろん、すぐに権力に頼ることはよくない面もありますが、他方、行政は行政の義務と責任を果たさなければなりませんから、何でも自分たちでやった方がよいというわけでもありません。自分たちで何とかすべきこと、行政がやるべきことをきちんと見分けて、それぞれがやるべきことをやる、ということが大切でしょう。

コメント [h2]: 徳島県は8割が山地を占め、毎年土砂災害による復旧工事などに道路整備費が費やされるため、一般道・生活道路の整備まで予算が回らないのが実情です。徳島市などの都市部のみに整備費を回せば何とかなるかも知れませんが、そうすると中山間地域は捨て置かれます。すなわち、徳島県内でも「中央-周辺」の問題が内在しています。

コメント [y3]: たしかに徳島の信号のプログラムは変です。11号と192号の交差点（本町交差点）など、信号のプログラムを変えるだけで渋滞は軽減するのではないかと思います。

来てれた人が再び訪れようと思いにくくなるのではないだろうか。今後開発事業が再開することがあるのであれば、交通整備からはじめてほしい。

今回の授業は、まとめのディスカッションだった。前回の授業コメントで学生が提起した問題について、先生たちが意見交換しながら、生徒も挙手制で意見を発言していった。時間の都合によって、平井先生に対する意見についてのみのディスカッションであった。

まず都市の一極集中についての意見交換がされた。今後この一極集中が続くかというものである。私の意見は、続かない、である。なぜかという、東京などの都市以外の場所での、活性化をはかる動きが確実に広がっているからである。徳島でのそのような動きは、今までのキャリアプラン、この総合科学入門講座での授業で聞いてきた。また、この春に徳島に来て出会った学生の中でも、徳島を活性化していこうという活動をしている人が本当に多く、実際に活動してはいなくても、将来は徳島に残って、徳島のためになる仕事がしたい、この徳島を何とか変えていきたい、という思いをもっている人に多かった。

また、「VS 東京」という目標を掲げているという話があった。東京に対抗するのはとてもいいと思う。しかし、東京に追いつけ、追い越せ、という考えで徳島の活性化を行っていくうちに、元の徳島らしさ、徳島にしかない良いところが、失われてしまわないように、バランスをとっていくべきである。

今回の総合科学入門講座では、学生が事前に問題提起をしたことについて先生たちが意見を述べた。徳島が「VS 東京」というスローガンを掲げていることは知っていたが、実際にどんな活動をしているのかはよく知らなかった。東京など大都市圏にある施設や制作を徳島に持ってきても、人口や経済力の点で規模は小さく、集客率や売り上げも低いことは明白である。しかし、徳島にしかないもの、徳島だからこそできるものを考えることができれば十分大都市圏に対抗できるだろう。地域活性化を実現するためには地域の人々が一丸となり行動することが必要不可欠である。小さなことでも、地域の良さや魅力を知り、外に発信することが活性化の第一歩だ。

今回行われたディスカッションの最後に、東新町のシャッター商店街についてふれられる機会があった。現在の東新町では、東新町のシャッター商店街の撤去を廃止するまでは実現しているもののそれ以降の動きがなく、シャッター商店街に活気を取り戻すべく何か

コメント [y4]: 地方からの人口流出、都市への人口流入は続いています。地方の活性化に尽力している人がいるのは事実ですが、人口全体に占めるそういう人たちの割合が高くないと、なかなか効果は出てこないでしょう。

コメント [h5]: 大変心強く感じるコメントです。

コメント [y6]: なぜですか? 「思う」を消して、理由を書いてください。

コメント [y7]: ?

コメント [h8]: こうした発想が、地域を変えます。期待!

コメント [y9]: どういうことですか?

政策をとってほしいという東新町出身の生徒学生の切実な願いが意見されていた。

確かに、商店街がにぎわっていた頃とシャッター商店街になってしまった現在とを比べてみると、その街の活気が失われたことは言うまでもない。しかし、本当に商店街の復興に意味はあるのだろうか。

たとえば、商店街に来る買い物客のほとんどが商店街の近隣住民である 1。そうなれば、徒歩や自転車で買い物に来る人が大多数を占める。こうなると、**車社会の発展**している徳島県に商店街は不向きだと言える 2。

しかし、徳島では高齢者の人口が多いことも事実である 3。高齢者は商店街の利用率が高い 4。それゆえ、**商店街側が顧客である高齢者のニーズに応え、商店街の経済を潤す**ことで活気を取り戻していくというのも一つの手である。だがそれは、その場しのぎにならざるを得ない。なぜなら、顧客の対象を高齢者として考えた時、衰退していくのは時間の問題であるからだ。

それゆえ、商店街の復興は今後の徳島を考えていけば効率的な取り組みとは言えない。つまり、シャッター商店街の活気を取り戻すための**政策は不要**である。

1 名寄商工会議所「商店街ニーズ調査」,

<http://cci.nayoro.biz/tyousa/ni-zu2014.pdf>,2017/06/25 アクセス.

2 下村滋「とくしま消費者交流ひろば」,

<http://www.tokushohi.or.jp/cafe.php?z=hghms>,2017/06/25 アクセス.

3 徳島県政府「徳島県年齢別推計人口」,

<http://www.pref.tokushima.jp/statistics/nenrei/>,2017/06/25 アクセス.

4 水野映子「商店街の活性化と高齢者」,

<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi/watching/wt0203a.pdf>,2017/06/25 アクセス.

今回の授業から、ある事から課題を発見することは難しいが、その力をつけること、さらにそれについて人と意見を交換することで見えてくることがある。事前課題で問題提起をしたときその難しさを感じた。さらに多くの知識や視点が必要である。最後にディスカッションする力も必要だ。

今回の授業はこれまでの講義の復習やまとめだった。授業を振り返るとともにある先生の講義のテーマについて発表をしたりした。質問をすると先生が答えてくれたり、また自分とは違う他の人の意見も聞くことができた。また自由に発表することができ、ディスカッション形式だった。次回が最後であり、その次から個別にクラスが分かれて自分の意見

コメント [y10]: この段落の論理の流れがよく分かりません。「近隣住民」だけ相手にしていると、人数が少ないから発展しないということですか？

コメント [h11]: 本来は環境負荷やエネルギー消費を削減するための「コンパクトシティ」という概念があります。高齢化社会でも、こうしたまちづくりを考えるべきかも知れません。

コメント [y12]: では、代わりに何をすればよいのですか？徳島は衰退するに任せておくのがよい、ということですか？

コメント [y13]: 名寄市のデータは、徳島市にも当てはまるでしょうか？

を言う機会が増えると思うので、しっかり相手に自分の考えを伝えられるようにしたい。

今回は総合科学入門のまとめ回だった。総合**化学科学**入門で身に付けるべき技能 1 論理的思考(説得力のある文章を書ける)については、毎回の授業コメントで意識するようにしてきた。自分の意見には必ず根拠を付けることを意識してきたことなどがその一例だ。しかし、説得力がある根拠を書けていたかどうかといえは恐らく書けていなかっただろう。これからも意識していきたい。2 多面的思考(物事を複数の面から考える力)については、まだうまくできないことが多かった。物事をいろいろな面から眺めるだけの前もつての**知識が欠けていた**。レポートを書くときは複数の情報源から情報を得ることを心がけて、多面的思考を心がけていきたい。この授業で学んだことを生かし、よりよいレポートを書けるように精進していきたい。

コメント [y14]: 毎日、新聞や本を読むことが必要です。

今回の授業は今までの授業のまとめであった。この授業で以下のことを再確認した。一つ目は、レポート・論文の書き方のルールとして、「思う・考える」を使ってはいけないということ。二つ目は、客観的根拠が重要であるということ。三つ目は、総合科学部には、地域問題について関心がある人が多いこと。

今回はまとめの授業ということであったが、内容のほとんどが地域問題についての話題に終始していた。地域問題について関心があることは素晴らしいと思うが、**総合科学入門講座のまとめとしての授業としては、偏りがあった**。総合科学入門ならば、**もう少し他の問題**についても取り上げた方が良い。

コメント [h15]: 申し訳ありません。少し私がしゃべり過ぎたかも知れません。ただし、国際社会文化、健康社会、公共政策についても、地域科学同様に総合的・学際的視点が必要なことはいうまでもありません。

今回の講義は「まとめのディスカッション」ということで、学生側から提起した問題を中心に講義が行われた。

平井先生の問題で、西新町の再開発について発言させていただける機会を得ることが出来た。発言させていただき、ありがとうございました。実家が東新町にあることから、この問題については祖父母始め、家族で話し合うことが多かった問題であった。講義で、若者たちがこの問題を考えていくべきである、と山口先生が話されていた。若者たちが考えていかなければいけないことは私も分かっているが、**若者が非常に少ない**ということがなかなか考えられない原因となっていると私は考えている。

コメント [y16]: 時間があればそうしたいところです。

コメント [y17]: 「考えられない原因」はいろいろあるでしょう。しかし、「できない理由」を考えても無駄です。「できる方法」を考えるようにしましょう。

今回はまとめディスカッションだった。1つの話題に対して各分野の先生の意見や考えを聞けるのが新鮮だった。平井先生への問題提起でよく提起されていた地域活性化についての話し合いは特に興味深かった。饗場先生の県外や首都圏に就職してみたり、留学をしてみたりなど外部に目を向けることによって、より現状が見えやすくなるはという意見はとても納得させられた。ただ必死にその問題と向き合うことだけが大切なのではなく、この問題と違った所からアイデアをもらったりと新しい考えを得ることが必要ということがわかった。

また、話にあがっていた西新町の開発については私も気になっている。私の意見としては、多目的に使えるホールにして欲しかった。私はストリートダンスをしている。よくイベントや発表会で阿波銀ホールなどの大きなホールを会場として使うことがある。しかし、文化センターが潰れてからは圧倒的にホールの数が足りていないのだ。これはストリートダンスだけに限らず、バレエなどにも言えることだ。どうしても、徳島県が主催となっているイベントを優先し、場所を取るため私的な使用の私たちにはなかなかチャンスが回ってこないのだ。自分の意見だけがすべてではないとは思っていたが、私や周りの人はホールにしてほしいという意見が、立場が変わると意見も変わり、様々な角度から問題を見ていくことが今の私には足りていないと感じた。このように、西新町の開発に反対する人もいれば、賛成する人もいる。結果は関係なく多くの人が納得いく結論を出してほしい。

今回のディスカッションはとても有意義な時間だった。また、このような機会があれば参加したい。

私が現在問題に感じていることは、徳島県の政策である、[vs 東京]についてです。(徳島が東京を変える)などと大きなことを言っていますが、あまりにもおこがましいように思えます。他県と競争したり、優劣を決めることに、何の意味があるのでしょうか?また、その基準とは何なののでしょうか?東京は大都市としての良さを、徳島は、地方ならではの良さをアピールしていけば良いと私は考えます。先生方からみて、[vs 東京]はどんな風に映りますか?

今回の授業ではいろいろな人の意見を見ることができ非常に興味深かった。一個の問題の中にもたくさんの意見があるということがわかった。それを通じ僕が思ったことは意見の違う人たちとどのようにして対話をしていくべきかということであった。まず自分とま

コメント [y18]: 徳島大学や徳島文理大学にもホールがあります。既存の施設を探して、効率よく利用すればよいのでは。

コメント [h19]: ありがとう。もう何回か行えばよかったですね。反省。

コメント [y20]: 私もあなたと同じ意見です。でも、県としては、そういう批判的な意見も含めて話題になるようなインパクトを狙ったのでしょうか。

まったく同じ意見の人はいいとして、同じ趣旨でも方針が違う人や、まったくもって意見が別な人も中には存在する。そのような人と社会に出れば必ず遭遇するだろう。そんな人たちとどのように話し合い相互理解を深めていけば良いのかをこの授業では教えてくれたのだ。

コメント [y21]: 具体的にどのようにすればよいのか、あなたの理解したことを説明してください。

今回のグループディスカッションは、生徒同士でやるものかと思っていたので、若干ガッカリした。

また、質問は、生徒全員ができるという前提で行うべきである。

コメント [h22]: 180人を超える授業なので、進め方が限られます。今後の反省点とします。

今回の授業は私が思っていたものではなく、意味の少ない授業に感じた。なぜなら私が考えていたディスカッションでは先生と生徒が自由に討論しあい、その内容を最後にまとめていく、というものだったからだ。今回のようにほとんどが先生たちの話で終わってしまっ、しかも挙手制にするといろいろと頭の中で考えている生徒でも気が引けてせっかくの意見がでてこないまま終わってしまう。なのでディスカッションをする場合にはあらかじめ先生方が喋る内容を決めておいて十分に生徒たちと討論する時間を設けたうえで行うべきだ。

コメント [y23]: あれだけの人数ではそういう授業は困難です。いちおう、教員がしゃべる内容等については事前に打ち合わせはしていましたが、実際の授業では打ち合わせ通りには進みません。

5月23日、共謀罪が可決されました。3年後に控えた東京オリンピックへのテロを未然に防ぐことや取り締まることができるという利点を考えてもやはり私は賛成できません。憲法で保証されている基本的人権を守りきれぬのかという大きな課題が残されているからです。先生はどうお考えですか。

コメント [y24]: 特定秘密保護法と共謀罪、放送法を盾に取ったテレビ局への威嚇の三点は、最近の国連の人権委員会でも問題視されています。立憲主義・国民主権の立場から、廃止しなければならないと考えています。

今回の授業は、今までのおさらいということで、まとめのディスカッションをおこなった。このテーマがあったおかげで、授業に対する学生同士のさまざまな考えを知ることができた。正直、「問題提起」ではないようなコメントもあったが、全体的に振り返って内容をより深く確認できたため、とても有意義な授業だった。しかし、最後に1つ、問題提起をするとすれば、1つの問いに対する1人の先生の回答が長くなりすぎるときがある、ということだ。(難しいのはわかっているが)要点を簡潔に言ってくれば良いのに、1つ1つが

丁寧すぎるため、なかなか次の先生の話が聞けなかったり次の話題にいけなかったりした。

答える時間の目安を決めるなりして、もう少し多くの問題を取り上げるべきだ。

コメント [y25]: いちおう、事前に打ち合わせはしていますが、本番ではなかなか打ち合わせ通りには進まないものです。そういうことも含めて、「授業は生き物(生もの)」と受け止めただけであればと思います。

今回の講義では、今までのまとめのディスカッションをした。地域活性についての話題に興味を持った。徳島に住んでいながら新町川は元々汚い水が流れていたことを知らなかった。今は匂いはあるがゴミは少なくなってきた。橋の上から見てみると、クラゲが泳いでいる。生き物が住めるということは水がそんなに汚くないということではないだろうか。

コメント [y26]: 新町川を守る会などの活動の成果です。これからもっときれいな川にしていくよう、皆さんもできることを考えてみましょう。

商店街を活性化するためにはまず、住民の協力が必要だ。大学生 1 人が動いたところであまり力がないので、やはり近所付き合いというのは重要な要素だと考える。

開会今回(?)の講義はこれまでの総括としてディスカッションを行った。長いようだったが、もう総合科学入門講座が終わる。色んなことを学んだが、やはり一番ためになったのは総合科学部とは何かということである。恥ずかしながら当学部に所属していながら、総合科学とは何か説明しろと言われても、当時は全く出来なかった。だが、今は多方面から意見をいうことが出来る。そんな学びの機会を与えてくれた総合科学部入門講座はためになった。

コメント [h27]: ありがとう。

今回の総合科学入門では、教授と学生とのディスカッションであった。

自分は、饗場先生にテロ等準備罪の強行採決についての見解を聞いたかったが、聞けずに残念だった。また、直接聞きに行ってみる。

コメント [y28]: ぜひそうしてください。

主に、平井先生の地域活性化についての討論だった。

コメント [y29]: 車に乗って山の中に行ってみてください。ものすごい山奥に住んでいる方もおられます。たいてい、高齢の方です。「こんにちは」と言ってみると、いろいろ話をしてくださる方もおられます。興味深い話が聞けます。いちど、行ってみてください。

自分は、徳島に来て 3 ヶ月で、まだまだ徳島の現実を分かっていないと痛感した。大学と家との行き来だけであつたら、特に不便ではない。

先週、用事があり、車で穴吹まで行った。汽車から見える田園風景や穴吹を探索してみると、山の麓に住んでいる人たちは、どこで買い物をしているのでしょうか、急に倒れたら、救急車が来るのにどのぐらい時間がかかるのだろうか疑問を持った。生活するのに不便なところがいっぱいある。

コメント [h30]: 地域には様々なタイプがありますが、それぞれのタイプにあったセイフティ・ネットが必要です。

地域を活性化をして、観光客を増やすのも大事なことであるが、農村部での生活を優先的に考える必要があるのではないかと。少子高齢化が進み、老人同士だけで暮らしている家

もあると聞いた。最悪、命に関わることであるので、例えばであるが、体調伺いに、町内会などが協力しながら毎日顔を見せるなど、対策をしっかり立てる必要があると感じた。

今回の授業はまず始めにこれまで行ってきた講義の説明があった。次に各先生方に宛てられた質問などに答える時間があった。3人の先生方によるディスカッションが始まり、私たちも三階参加できるのかと思っていたがあまり参加できなかった。先生方のディスカッションをただただ聞いているだけであった。そうではなく、周りの人ともディスカッションがしたかった。先生方のディスカッションだけでは自分達が考えていることが正しいのかそうじゃないのか判断することは難しい。周りの人とディスカッションすることによって自分とは違う考えが出てき、判断できるはずだ。発言できる場も限られていたようだった。

ある学生が遠藤市長の言っていることはあやふやだと言っていたが私も同感である。市長選挙で宣言したことは行ってほしいものだ。何のために選んだのかわからない。

総合科学入門講座で説得力のある文章を書くために、自分の主張に客観的根拠をつけ論理的思考力を持ち、物事を複数の立場から考え、自分の立場とは反対の立場を検討することで多面的思考を持つことが重要性を学んだ。前回の授業コメントで、これまでの授業をもとに問題定義をした。現状を分析し、問題が起きていることに気づき、目的や課題を明らかにし発見する力、またその問題を解決するために思考する必要性を理解した。

今回の授業では、まとめのディスカッションとしてそれぞれの先生に問題定義提起を行なった。授業では特に徳島の課題についてであった。今回の授業から、私の考えた徳島の課題は、良いところを活かせていないということだ。徳島は川がたくさんあり水に恵まれる日本有数の水都である。しかしながら、市内の川には多くのゴミが浮かび見た目が悪い。また、匂いがキツイと感じる時でさえある。せっかくの水都であるならば、川の手入れにもっと力を入れて行こうべきだ。山口先生は、これでも綺麗になった方だとおっしゃっていたが、県外からやって来た私にとっては今の現状しか知らない。徳島にやって来て数日しか過ごさない観光客ならなおさらだろう。県南に行けば、川で楽しめる多くのアクティビティもあるがそこだけが綺麗だったらいいというのはおかしい。新町川で行われる徳島マルシェや、日本で唯一県庁前がボートの停留所となっており川とはゆかりのある暮らしを

コメント [h31]: 当方が時間を取り過ぎ、申し訳ありませんでした。ただ、ディスカッションし発言する際には、それを裏付ける論理的展開と裏付けとなるデータが必要です。皆さんにも、ぜひそうした姿勢を身につけていただきたいと思います。「思う」ではありません。

コメント [h32]: ありがとう。

行える徳島で川の清潔さを保つために県民は日々努力をしなければならぬ。徳島の良さを活かすことで観光客の増加を見込めるだろう。他にも徳島の魅力はいっぱいあって、その良さを活かすことができたなら VS 東京なんて言う必要もないし、そもそも東京と戦おうと思っていること自体が間違っているはずである。徳島の魅力は東京には無い素晴らしい自然の恵みである。もしかしたら、VS 東京を考えた人が一番徳島のことを分かってないのかもしれない。私はこの4年間で徳島の魅力をもっと知り多くの人に伝えていこうと思う。

コメント [y33]: そのとおりですね。あなたも今日から、何か活動してみてください。

コメント [h34]: 徳島県の飯泉知事が掲げる「VS 東京」は、「地方 VS 東京」で、その地方の代表が徳島県ということのようです。ただ、地方の県にもそれぞれに特徴があるので、一概に「地方=徳島」と考える点には無理もあるかも知れません。

今回の総合科学入門講座は、生徒が疑問に思ったことや問題に感じたことを先生がディスカッションして先生の考えを聞いた。私が印象に残ったことは、先生の中でも同じ意見として、他の地域や外国などの新しい世界を見てきて、新しい視野を持ち、その新しい視野での発想を活かして主体的に活性化させる、という意見だ。まさに私が徳島大学に入ろうとした動機の一つだったので、改めて動機を思い直し、**気を入れ直そう**と思うことができた。

コメント [y35]: とりあえず、「トビタテ！」に応募してください。

徳島には放置された活用可能な資源が多くあることを改めて感じた。それらを最大限に活用することで、より徳島が活性化していくと思うが、学生の意見にもあったように、イオンやゆめタウンのような大きなショッピングセンターが増えることで、シャッター街が増えてしまうようなことがおきてしまう。それらの問題を解決するのは、それらの問題に対して疑問を抱いている私たち自身である。大きなショッピングセンターとは違った魅力を発信するための手段として、シャッター街の復活やそれによる地元の特産物の宣伝をしていかなければならない。

徳島に関して上がる問題点は、大抵がそういった地域活性化に関する話題であり、だからこそ、そういった類の問題は早急に解決していかなければならないのである。しかし、地域活性化に対する徳島でのさまざまな活動はもうすでに行われている。それにもかかわらず、活用可能な資源が十分に活用されていないと多くの人を感じている。昔ながらの風習を大切にしたいという意識と、東京や大阪のような都会へのあこがれ意識との間に大きな矛盾がある。

しかし、その両者を求めることは地域活性化にとって非常に重要なことである。徳島特有の文化を残しつつ、**近代的な人々を魅了する文化を形成していくことこそが地域を活性化させることそのものである。**

コメント [y36]: 具体的にどのようなことをすればよいのでしょうか？

私は今回の授業で「他も見てみる」という言葉が心に残った。なぜなら、私自身も商店街についてレポートや授業コメントを書く中で、自分が考えている商店街だけではなく、他の商店街についても知りたいと思うことが多々あったからだ。栄えている商店街と廃れている商店街の違いはどこにあるのか、自分が考える取り組みはすでにどこかで行われているのか、行われているならばその成果はどうだったのか、なぜそのような結果になったのかなど、他の商店街についての情報が不足しているため、自論の展開が思うようにできなかった。後期の授業では、自分の意見を説得力をもって主張できるように、他のものについて調べ、比較検討する力をさらにつけていきたい。

また、他にも「自助・共助・公助」についての話や、「長期的な見通し」の重要性についての話など、今後の参考になる話をたくさん聞いたので、今回はとても有意義な授業だった。しかし、共謀罪の話や学生の意見もぜひ聞いてみたかったので、平井先生の課題に関する話だけで終わってしまったのが残念だった。ある分野の先生が他の分野の先生に対して質問し、それに詳しく回答する様子はなかなか見る機会がないし、私たち学生が新しい視点を持てる場であるため、来年からは2時間に分けてじっくり話を聞けるようにするべきではないだろうか。

今回の講座のどこがディスカッションなのかわからなかった。ほとんど教授同士で意見を言い合っ、私たちの発言の機会は合計4回。教授同士の論争ならば、別の機会を設けてやるのが至極当然である。

一極集中の話題だが、都市に集中するのはあたりまえのことである。なぜなら、交通の便利さが徳島とは比べものにならないからである。今回の講義に参加した教授たちがどれだけ把握しているかわからないが、徳島では汽車が1時間に多くて3本、ほとんどが1~2本である。公共の交通機関がこのような状態で、誰が徳島に来るのだろうか。

また、東京にはないもので勝負する的事を言っていたが、具体的な案も無いのに、理想だけ言って叶うと思っているのだろうか。たとえ、東京には無いものを作っても、徳島県が活性化する保証はない。都市に人が集まり、地方の人が減っていく。それは、どの国でもあたりまえのことであり、逆に都市も発展しつつ、それに負けないぐらい地方が発展している国を知りたいものである。

今回のまとめのディスカッションは前半と後半に分け、2回の講義で行うべきであったのではないだろうか。学生側の質問も地域貢献に関するものしか出来なかった。仮に他の時

コメント [y37]: たくさん話題を取り上げると、一つ一つが薄くなるというデメリットがあります。

コメント [h38]: 申し訳ありません。

コメント [y39]: 検討します。

コメント [y40]: 学会や大規模なシンポジウムなどではよくある「パネルディスカッション」という形式です。教員の発言を聞いて、「質問の仕方」「答え方」を学んでください。

コメント [y41]: ヨーロッパへ行ってみてください。魅力的な地方都市や、小さな町、村がたくさんあります。基本的に、財政による富の再配分が機能していれば、都市の発展と地方の発展は両立します。

コメント [h42]: 山口先生のコメントを補足すれば、「生活」に対する国民性の違いもあるのかも知れません。確かに都市部に何でもありますが、「豊かな暮らし」とは何かを考えてみることで、そのためにはどうやって社会保障を充実するか、地方の豊かさを理解させるか、という観点も必要かも知れません。

間を削るとしたら留学の回だろう。留学に関しては SIH 道場で既に聴いており、あの時点で留学に全く興味の無い者は留学生の話の聴いても特に心変わりはないのではないだろうか。

今回の講義では、事前に学生が考えた問題を題材に先生方がパネルディスカッションを行い、何人かの学生が意見を発表したり、先生方に質問したりした。

ディスカッションの題材となった問題は、徳島県などの地方と都市との関係についてであった。地方という言葉をきくと、人口減少や高齢化などネガティブな印象を受けるが、近年は地域創生という言葉が以前よりも広く知られるようになり、都市圏からの移住者が増やす等、地方を活性化させる動きが活発に行われている。徳島県でも、このような動きが行われており、授業では「VS 東京」というキャッチコピーのことが取り上げられていた。私はこのキャッチコピーは知っていたが、なぜこの言葉を掲げて他県に徳島をアピールするのか、また具体的にどのような活動を行っているのかは知らなかった。調べてみるとコンセプトとして、東京をはじめとする大都市には無い価値を見つけ、発信していくことだけでなく、地方である徳島が活性化することで、東京を動かし、東京をさらに発展させることも挙げられていることが分かった。これを踏まえると、神山町がサテライトオフィスの誘致に力をいれていることは、東京には無い高速のインターネット回線をアピールし、同時に東京等の大都市にある会社の働き方を発展、多様化させているため、「VS 東京」のコンセプトに沿った、成功例だと言える。

地方の魅力として、一般的に自然や食の豊かさが挙げられる。もちろんこれらも魅力の一つではあるが、他県と差別化することができない。そのため、徳島を活性化させるうえで今まで目を向けていなかったものに注目するべきである。現在、徳島では阿波踊りやすだちの宣伝を大々的に行っている。しかしそれだけでなく、神山町が抜群の IT インフラ環境を宣伝するように、改めて徳島を見直し、今まで気づけなかった新たな価値を発見する必要がある。

ウェブページ

徳島県庁「VS 東京」, <http://www.vs-tokyo.jp/concept/>, 2017/06/25 アクセス

学生の 1 つの疑問に対して教員が答えるディスカッションの時間があるのは良かった。なぜ良かったかという点、文章だけではわからないことがリアルタイムで討論されることにより、表情や声色を通してお互いの考えが伝わりやすくなり、日本語の微妙なニュアンスによる食い違いがすぐに訂正しやすい。また、疑問に 1 人の教員が答えるのではなく、

コメント [y43]: 「体験記」よりは、留学するためには具体的にいつどこに行けばよいか、というマニュアル的な話をしてもらいました。「行く気がある」人は多数だと思いますが、「実際に行動を起こす」人は少数です。なぜそうなるかという点、具体的にいつどこで何をすればよいかを自分から積極的に調べないからです。その情報を与えることで、「行く気がある」人が、「実際に行く」ようにするのがこの授業の目的です。

コメント [y44]: そのとおりですが、IT 産業ではそれほどたくさんの人の雇用は生まれません。また、数軒の会社が来てくれただけでは、経済的な影響もあまり大きくないでしょう。もちろん、小さなことの積み重ねは大切ですが、徳島県全体の経済規模を拡大する道のりはなかなか長くて険しいでしょうね。

他分野からの意見もあったので違った視点からの答えも聞くことができ、**学生の満足度も上がるだろう。**

コメント [h45]: ありがとう。反省点も多々あります。

今回は、前期の内容のまとめディスカッションだった。しかし、先生が以前行った授業と同じ内容しか説明されておらず、不完全燃焼だった。

また、質問の内容も先生ではなく県庁や、市の職員に言うべきものばかりだった。

私は単に発言者にポイントを与えるだけでは学生の意見はあまり出てこないと考える。キャリアプラン入門の時のように**即席でグループを作って、グループごとの意見を聞くべき**だと思った。

コメント [y46]: この授業では、事前に「問題提起」の文章を書いてもらうことで、準備をしてもらっています。考えるためには情報が必要ですから、その場で即席で考えても、大したことは出てこないからです。

ほぼ教授の方々のお話を聴くだけで終わってしまった。今回興味深かったのは、街づくりに関する意見とその回答であった。

【再開発について】

徳島市は長く原氏が市長を務め新町西再開発を推進していたが、元四国放送アナウンサーの遠藤氏が白紙撤回を掲げ、当選した。しかし、未だその後の方針が示されていないのかそれとも周知が足りないのか、あまり聞かないのが現状である。

「水の都とくしま」と称している割には、川を活かせていない。現状、ボードウォークとひょうたん島クルーズ位しかないではないか。

【道路に関して】

徳島は自動車の必要性が高いものの、道は細く劣悪であるとしかいいえない。一方通行の箇所が多く複雑であり、道自体の損傷が放置されている箇所も多い。県庁前のタイルで舗装された歩道の一部はアスファルトで補修している。

鉄道網は充実しているとは言えず、**自家用車を持たざるを得ない環境であるからこそ、公共交通機関の利用が少ない**のではないか。本来であれば、戦後の復興期に合わせ道を大きくすると同時に路面電車を導入する位の抜本的な改革が必要であったようにも思える。しかし、川の多さが都市計画に多大な影響を及ぼしていることは確実であり、道を拡張しようとも難しかっただと思われる。

コメント [y47]: 卵が先か、ニワトリが先か、ということでしょう。人口が少ないと、公共交通機関は経済的に成り立たないという側面が大きいです。

総合科学入門講座を通して様々なことを学んだ。その中でも 2 つこれから意識していきたいことがある。まず 1 つ目はレポートの書き方である。コピペや自分の主張がはっきり

としていないようなレポートを書かないように意識したい。そのためにも、信頼できる情報源を自分で見つけ、1つの情報源だけでなくいくつかの情報源から自分の主張を補強できる能力を身に付けたい。2つ目は読書をするることである。読書は大切と今までたくさん聞いてきたが、継続して本を読んだことがない。読むときは読むが読まないときは読まないというのを繰り返してきた。しかし、大学生は時間に余裕があり本を読む時間も自分の時間の使い方次第では多くとれる。したがって、大学生のうちに毎日本を読む習慣を身に付けたい。また、1つのジャンルにこだわらずにフィクションやノンフィクション、専門書などにも挑戦していきたい。

コメント [y48]: それと、反対の立場を考慮することが大切です。

今日の授業では、様々な先生から、いままでの授業で浮かんだ疑問について解説してくれた。私は一極集中化について問題提起した。それについても平井先生に解説してもらえた。今回、私は発言する機会をつくれなかったが、他の人の発言を聞いて、自分とは異なる意見を持っている人もいた。そういう意見をきいて、また違った視点から考えさせられた。ディスカッションは、自分が持っていなかった視点から物事を考えることを他人から気付かされる。そういう点でディスカッションは、自分にとってとても良い時間を過ごせた。

コメント [h49]: ありがとう。

今回問題提起をして、今まで学んできたものについて自分から問題を考えて、誰かに提起するのは難しいことだと感じた。どこから提起したらよいか分からなかったが、素直に自分が思った疑問点を書いてみた。授業の目的としては自分の主張に客観的根拠をつけて説得力のある文章を書いて論理的思考力を身につけるべきである。また、自分の立場とは反対の立場を検討して、物事を複数の立場から考えて多面的思考力を身につけなければならない。

コメント [h50]: この授業の趣旨をよく理解していますね。

今回の授業のディスカッションでは事前課題で挙げられた問題を話し合った。私はこの授業で自分の考えを発表できなかったのが今、発表したい。このディスカッションで東京一極集中について話し合った。私は東京に一極集中していることはよくないと考える。なぜなら、東京に災害が起きた時、すべての機関がストップすると日本が混乱する可能性があるからだ。日本は災害大国と呼ばれ、政府地震調査研究推進本部の調査によると今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率は高いところで26パーセント以上となっている。

コメント [y51]: もっともな指摘です。授業でも言いましたが、一極集中は経済的理由で起こりますが、人や企業は「ほかの条件が現状のままであれば」という前提で考えてしまいます。災害のことを考えて対策に投資していたら、災害なんか考えず、それに投資しない企業に競争で負けるからです。なので、首都機能の分散は、政府が人為的に計画を立てて行わなければ実現しません。経済的な競争が行われている中で実行するためには、周到な計画を立てないとうまくいきません。

る。確かに東京に一極集中させることで機関どうしの連携が取りやすいかもしれない。しかし、災害によってその期間が機能なくなると元の子もない。地方に機関を置くことで地域の活性化にもつながる。

今回の授業は今までの復習と学生と教授のディスカッションだった。正直忘れかけてしまっていたこともあったが、今回の授業で思い出すことが出来た。私が特に興味深かったのは西新町の開発についてだ。私も徳島県民なのでどんどん町がシャッター街になっていくのを見てきたし、私の親が若いころはもっと活気があったと言っていた。個人的な意見だが、私は再開発をしてほしかった。本当に勝手な考えだが少子高齢化が進んでいなければ結果は違っていたのかなと思ったりもする。イオンのように人気のテナントを見つけるのは難しいと思うけどどうにかしてほしい。

コメント [y52]: 理由を書いてください。あなたは音楽ホールに行きたいですか？

今回の総合科学入門講座は今までの講義に関してのまとめのディスカッション及び学生からの質問であった。一極集中型になるかどうかという質問に対し、一極集中にならないと主張する学生がいた。その理由としては年都市にはキャパがあり、集中させるにも限度があるということであった。確かに面積で見ると都市には限界はあるが「高さ」を加えると、その状況は変わってくると言える。現在サウジアラビアでは高さ 1km のビルを建設中である。これらを日本でも建設することができるならば、面積をあまり必要とせず多くのオフィスや住居を建設することが可能である。そのため面積のキャパでは限界があるかもしれないが、3次元で見た場合の限界があるというのは現実的ではないと言える。したがって、一極集中になる理由として都市にもキャパの限界があるためであるとは言えないと言える。質問です。消費者庁を徳島に持つてくるという話があったが、国の機関を地方に置くメリットはあるのでしょうか。自分の意見として、国の機関は東京に置くべきであると思います。理由としては国の機関の連携を図るためには近くに設置しておく方が、効率がよいと考えるからです。現在でも電子書類だけではなく、紙媒体での書類も多く使われている上に、省庁同士の訪問なども円滑に進むからです。さらに他の理由として、地方自治体が地域創生を図るために誘致をしようと試みているならば、納得はいかないからである。何故かというと、地方自治体の機関もその市町村の中心部に集まっているからです。徳島市も駅や郵便局、市役所、裁判所など多くの機関が密集している。その理由としては便利であるからである。そのため徳島市中でも駅周辺とそれ以外では道路整備や施設の充実などでは格差が生まれていると言える。徳島市内で見ると相対的に都会に部類され利便性を求めるが、全国規模で見たときに田舎に部類され利便性より地方創生を求めるのは、

コメント [h53]: 確かに、都市のキャパは上がっています。ご指摘を有り難うございます。

コメント [y54]: 一つは地域振興、もう一つは災害対策です。

コメント [y55]: 徳島市の中ならば、車や自転車でも移動可能です。東京と徳島では、飛行機でないと不便です。日本全体と徳島市内とは、大きさがぜんぜん違うので、同じようには言えません。

あまりにも矛盾していると言える。これらの理由から私は東京におくべきであると主張する。

今回の授業は通常総合科学入門講座とは異なり、話し合いの要素が強かった。先日私達生徒が問題提起をしたことについて真摯に答えてくれた。その中でも私は特に、平井先生への問題提起に興味がある。徳島が取り組む対策の具体的な内容や、徳島にあつて東京にはないものを活かすという対策の具体的な内容をほかの生徒が聞くことで私もまた勉強になった。消費者庁を徳島に移すという案には私は賛成でない。徳島は四国以外の地域からだとかなり訪れにくい場所である。四国は本州とは異なり一つの島であるので橋を通らなければならないし、災害時には橋が崩壊する可能性も0ではない。また、フェリーという移動手段もあるが少しの風でも休航になるので不便だ。徳島でなくてももっと効率のいい場所があるため徳島県民の期待を国に押し付けるべきでない。一方で、文化庁を京都におくという案は文化財が京都に多いため効率がよくいい案である。対策を考える際には多くの人の意見を聞かなければならない。

西新町の再開発計画の話が出ていた。私も白紙撤回で良かったと考える。西新町のあの場所に音楽ホールを作ってもアクセスは悪いし、ホールのキャパも中途半端だったので、確実に税金の無駄になると思っていた。音楽ホールにするぐらいなら、阿波踊り期間中の駐車場に変えるとかにする方が良い。

地方活性化がうたわれているが、東京一極集中が進んでいる。そのような中、徳島では、東京にないことを徳島に作ろうという「VS東京」で活性化していこうと活動している。今回の授業で、徳島県にもいろんな日本でナンバー1があることを知った。例えば、帰宅時間が日本一早い、ケーブルテレビ普及率日本一である。地方はお金をかけるところは多いかもしれないが、VS東京を起点とし、まずは徳島県から活性化を考えていきたい。UターンやIターンを促し、人口を増やすことも考えていかなければならない。

今回の講義は、まとめのディスカッションを行なった。

コメント [h56]: 一つの意見・見解として傾聴できます。そうすると、すべてのヒト・モノを東京に集めるというのが最も効率的ですが、その場合、どのように「国土」を保全していくのでしょうか？また、現実的に、ヒト・モノの2/3を占める地方をどのように維持していくのでしょうか？

コメント [y57]: 実は、高知や愛媛に行くよりも東京に行く方が早いです（飛行機で一時間）。四国の他の県も同様です。

はじめに、総合科学入門講座の目的の再確認を行なった。論理的思考力や多面的思考を身につけなければならない。その理由は、日本が民主主義国家であるからだ。正直、この目的を達成できたのかはわからない。しかし、レポートの書き方をはじめ、毎回の講義で自分の知らない知識を増やすことができた。これからは、誰が見ても納得するようなレポートを書けるように、論理的思考力をより磨いていく。

そして、学生からの問題提起を先生ごとに確認した。これまでの講義を踏まえた上での問題提起は、興味深いものが多かった。さらに、自分が問題提起したもの以外にも、どのようなものがあつたのか知ることができたことは有意義であつた。

しかし、その後のディスカッションで平井先生の問題提起のみを扱ったことは残念であつた。確かに、学生から一番多くの問題提起があつた。だが、せっかく様々な分野の問題提起があるのに、一つに絞るのはもったいない。時間はあつたのだから、できるだけ多くの分野を検討する方が良い。そうすることにより、特定の分野の問題提起を様々な分野の先生の意見を聞くことができ、物事への新しいアプローチにつながる。

今回は最後の講義である。だから、しっかりと復習をして締めくくられるように準備を行う。そして、有意義な講義であつたと、これからの生活で思えるようにする。そのために、たくさんの論文や本を読み、総合科学入門講座の目的を磨いていく。"

コメント [y58]: 三か月の講義で身につくはずがありません。これからも後期の「課題発見ゼミ」などで反復練習を行い、卒業までに身につけてください。

コメント [h59]: 私がしゃべりすぎたのかも知れません。もうしわけありません。

コメント [y60]: 話題を増やすと、一つ一つが薄くなるデメリットがあります。

コメント [h61]: 期待しています。

今回の総合科学入門講座では、まとめのディスカッションが行われた。この回では時間の関係からか、地方についての話題についての議論のみ行われた。しかしここでは地方問題として度々問題視される東京の一極集中がなぜ起こるのかということや中央部のリスク回避の方法についてだけでなく、地方問題の議論から発展して問題にあげられた海外からきた労働者の労働環境の劣悪さについて知ることができた。

今回のディスカッションで聞いたかったけれども聞けなかったことは、海外からきた労働者の労働環境の劣悪さは日本で十分に報道されていたのか、ということである。日本人の労働者が過酷な労働から自殺してしまったことに関しては連日ニュース番組や新聞で取り上げられていた。そしてこの事件を受けてブラック企業のことが世間に広く知れ渡るようになった。しかし海外労働者の現状について報道されることは、日本のいわゆるブラック企業の報道の数と比べるとかなり少ない。私も日本のブラック企業については知っていたが、この講義で話題になるまで海外労働者の置かれている状況についてほとんど知らなかった。そこで、海外労働者の置かれている環境もよく報道されているブラック企業の状況と同等かそれ以上に労働者の権利を無視したものであるにも関わらず、なぜこの問題が大きく報道されないことについて聞きたい。このように報道が少ないことは、民主主義論の講義でもあつたように日本の報道の自由の低さからきているのではないだろうか。日本では海外労働者の受け入れを推進している。そのため海外労働者が日本にいる海外労働者

コメント [y62]: 十分かどうかは分かりませんが、報道はされています。みなさん、新聞をちゃんと読んでいますか？

とりあえず、授業でも言及した移住連（移住者と連帯する全国ネットワーク）のウェブサイトを見てください。

<http://migrants.jp/>

代表の鳥井さんは、上野加代子先生の「比較社会論」（後期）に来て講演して下さる予定ですから、講演だけでも聞きに行ってください。

コメント [y63]: 日本の報道機関は、日本人の視聴者が見てくれそうなことを取り上げます。

の置かれている労働環境を見て日本に来なくなったり、日本以外の国へ行こうとしたりするのを危惧して、日本の海外労働者の環境の報道を控えるよう、各メディアに圧力をかけているのではないだろうか。

確かにここは日本であるため、日本人の事件や日本人の関わる事が中心に報道されることは自然なことである。しかし日本人も、日本にいる海外労働者と共に仕事をするのだから日本人に無関係な問題ではない。そのため日本のブラック企業ほどとまではいかなくてももっと多く報道をされるべき問題であり、日本で働く海外労働者の劣悪な労働状況も多く取り上げられても良いはずだ。それにも関わらずこの問題の報道があまり多くないのは、海外労働者を増やすことで、日本人が嫌がる労働をさせたり、少子化に伴う労働力不足を補填させたりすることを目的とする政府が、海外労働者に日本の現状を知らせないようにするために、報道規制があるからだとは私は主張する。

コメント [h64]: 報道は少ないかも知れませんが、外国人労働者あるいは在日者についてはたくさんの本や論文もあります。

コメント [y65]: 頭の中で考えた後は、その仮説を検証するために調べよう。

この講義を受けて、読書から政治のことまで学べてまさに総合科学の学びと感ずることが出来て、短い間ではありましたが、とても有意義な講義でした。

後期の課題発見ゼミナールもすごく楽しみです。

最初は、本当に何を学ばよいかもはっきりとはわからず、総合科学の目的や徳島マルシェの話など、内容がまとまってない講義かと思いついていた。(レポートの書き方や読書の目的などの話はそれなりにタメになるものだった)しかし、講義の内容だけでなく、多面的に考える姿勢の大切さやこの授業コメントを課したりなどして、学生にとって力になる大切な講義だと改めて実感した。

コメント [h66]: ありがとう。

今回はまとめのディスカッションだった。他の学生の意見を知ること、私とは違った観点や視点から問題提起をしていることを学んだ。こんな考え方をしているんだ、こんな事が問題として挙げられるんだ、など、新しい発見ばかりだった。先生方が丁寧に回答して下さったことを無駄にせず、これからの生活に役立てていかなければならない。身近にある些細なことから問題点を発見する力を身につけ、解決できるよう努力していきたい。

今回の授業はまとめディスカッションということで、先日の課題だった問題提起の内容を公開して話し合った。私は今回の授業では何人かのグループに分かれて問題提起の内容をディスカッションするのかと思っていたため、先生とたった数人の生徒のやりとりだけで終わってしまったことが残念である。このような授業形態をとってしまうと、大勢の中で躊躇なく発言する人が少ない現代現状において意見があっても発言できない状況を産んでしまう。自分の意見を客観的事実に基づいて説明することがこの授業の目的なのであれば、学部全員で話し合いをするよりグループに分かれて話し合いした方が参加しやすいし、授業内容を理解し自分の力にしようとする人が増える。たった数人の教授に総合学部全員の問題提起に対する答えを出すことは難しいが、いくつかのグループの代表に対して議論することは容易である。以上のことから、私は今回の授業形態は好ましくないと考えた。

コメント [y67]: コメント y27 と y31 を参照。

コメント [h68]: 反省材料とはします。

今回の授業では、まとめのディスカッションをした。二百人くらいいるなかでディスカッションするのは無理だろうとなめていたが、勇気のある何人かが良い質問をして先生がたの見解をきくよい機会となった。とくに印象に残ったのは、地方の復興において大学は先導することはあまりないということだ。それをきくまでは公務員や大学の教授や学生が地方創生をしているものだと考えていたので驚いた。現地に住む人が自分のすむ地域を盛り上げていこうとしなければならぬとおっしゃったのをきいて、目から鱗といった感じだ。確かに公務員がどんなに頑張ったって地元の人にその気がなければ何もおこらない。私の地元和歌山復興計画(私が個人的に目論んでいる)をより確実にするのにとてもよい勉強になった。

コメント [y69]: 多くの人が、「誰かにやってもらおう」「誰かがやってくれるだろう」という態度でなく、自分が積極的にかかわる態度を持たないと、民主主義社会は成り立ちません。

今回の授業では、今までの授業の振り返りやまとめのディスカッションをした。改めて振り返ってみても、レポートや授業コメントなどで「思う」や「考える」という表現を使わずに文章を書くことは難しかった。論理的思考力を養うということは、そう簡単にはできないことを実感した。

コメント [y70]: コメント y39 参照。

まとめのディスカッションでは始めに、前に並んだ先生方が東京一極集中などの、生徒が提起した問題についてディスカッションした。先生方は意見を求められるとすぐに発言することができるし、自らマイクを持って意見を述べたりしていた。私は自分の意見を根拠を持って述べるのが苦手である。この先生と私の差は、やはり知識の差からくるものである。なぜなら提起された問題についての知識がなければ自分の主観的な発言しかすることができず、根拠を示すことができないからである。よって、ディスカッションの能力を上げる第一歩として、知識を増やすことから始めたい。そのためには、読書をするこ

コメント [h71]: 知識が少ないのは当然ですが、これからの「第一歩」が大事です。期待しています。

が効果的である。

「労働力が不足するなら、移民を呼び込めばいい」という考えには、私は反対である。安易過ぎる。日本は資源に乏しく、アメリカやサウジアラビアのように農業や石油では生きていけない。日本は技術面において常に世界一であり続けなくてはならない。つまり、技術の持ち出しは即ち死である。いつだったか、「二位じゃだめなんですか?」と発言した政治家がいたが、彼女は本当に日本のことなど考えていなかったのだろう。日本は日本国籍取得者以外の移民労働者に頼るべきではない。仮に大量に受け入れたとしても上記の理由により彼らが就くことが出来るのは単純労働だけであり、これまでのような劣悪な労働環境で働かされる者も必ず出てくる。そんなことは先進国のすべきことではない。

国会で足の引っ張り合いのような非効率かつ非生産的で無意味な上に不愉快な議論をする前に、国内の労働力を育てるために金と時間を使うべきだ。

コメント [y72]: 移民の話からズレています。

コメント [y73]: 国会の議論はそれはそれで大切です。

今回の講義では学生が提起した問題についてディスカッションをした。地域や政治などの社会問題から授業の内容についての問題など様々な話し合いがされた。論文を書く規則はいつ生まれたかなど自分では思いつかないような問題について知ったり考えたりすることができ、良い機会になった。講義の話し合いの中でも特に地方の過疎化や地方創生の問題についてのディスカッションに私は興味を持った。地方の過疎化や衰退には抗えないという意見もあったが、過疎化や衰退が進んでいくことで産業などが衰退するだけでなく文化や伝統など様々なものが失われてしまうため、諦めずに対策を考えていくべきだ。しかし、地方の過疎化の対策や地方創生の方法を考えようと言うものの、私自身も現在すでに実施されているようなものしか思い浮かばない。それは地方の現状や何が本当に問題なのか知らないからだ。だから、地方の活性化については、地域の人々とともに問題を解決していくのが良い。なぜなら、それぞれの地域に個々の良さや問題があり、過疎化といってもその原因はその地域で違うからだ。葉っぱビジネスなどのように地域の人々が主体となって、その土地の強みを生かしたビジネスなどを始めていくことで地方の過疎化や衰退によりよく取り組むことができると思う。

コメント [y74]: あなた自身が「地域の人々」ですよ。

6月23日の講義では、前回の課題で学生が取り上げた質問や問題点などについて、先生方がディスカッションし、さらに疑問に思ったことを学生が質問して先生が答える、とい

う、今まであまりやったことのない形式の授業が行われた。

「vs 東京」の話題が上がった時の、消費者庁を転移するという解決策だが、山口先生の言われた通り、それはただ東京でもできることを徳島でわざわざすることに過ぎないし、調べてみると徳島転移に乗り気なのは河野消費者相だけであり、メリットよりもデメリットの方が大きいことから実現は不可能に近いと分かった。(消費者政策を考える、相川優子、2017年6月25日閲覧、http://syohisya.blogspot.jp/2015/12/blog-post_20.html)

「経済効果をあげるためにこうしたい!」という考えを県民が持っておらず、目先のことだけを見てプラン立てているというのは何が根拠として挙げられるのだろうか。県民に直接話を聞く機会を設けたのであろうか。もっと県民がしていることや考えていることにも目を向けて、県職員と県民が一体となって経済効果を上げるための意味ある対策ができるようにすべきではなかろうか。

今回の総合科学入門講座はまとめのディスカッションだった。これまでの授業をもとに出された学生の問題提起について議論した。主に地域問題についての議論だった。地元を活性化させるには外の世界を知ることが重要である。自分の地域の問題点やその解決策など、地域を外から見ないと分からないことが多々あるからだ。地域に籠って考え込むより地域を飛び出して解決策を探る方が良い。外の世界とは日本国内の他の地域にとどまらず外国も含まれる。時間のある学生のうちに留学などで海外に行ってみるべきだ。海外体験は貴重な経験ではなく必要な経験ではないだろうか。

東京一極集中についても問題に上がった。消費者庁を徳島へ、文化庁を京都へなど、省庁を地方に移転するといった取り組みが行われている。文化財の多い京都に文化庁を移転させることはまだわかる。これまで必要だった東京から京都の交通費を削れるからだ。しかし、消費者庁は何のメリットがあって徳島に移転する話があるのだろうか。むやみに移転させるのはかえって不便になる。東京一極集中は悪いことではない。なぜなら、利便性が格段に良いからだ。しかしそのせいで地方から人が出ていくのも事実である。今の時代はインターネットなど通信手段が発達しているので、都市部と地方で連携を取りながら仕事をすることができる。都市にいても地方にいても同じように仕事ができるのである。都市部と地方の違いは交通の利便性である。地方は交通網が十分に発達していない。飛行機や新幹線、高速道路など交通網を地方に行き渡らせることが必要である。地方から、また地方への交通手段が発達すれば東京に集まる必要がなくなる。結果、地方に人がとどまるのではないか。

コメント [y75]: コメント y27 参照。

コメント [y76]: 一つの情報源だけでなく、賛成側の意見も読んでみよう。

コメント [y77]: 具体的にどんなことがありますか？

コメント [y78]: ぜひ「トビタテ！」に応募してください。

コメント [y79]: そう思ったら本四連絡橋を作ったら、多くの人が神戸や大阪に買い物に行くようになりました。「ストロー効果」と言います。交通を便利にすると、地方から人はどんどん出ていくのです。

今回の授業はこれまでの内容を踏まえてのディスカッションだった。都市への一極集中と地方の過疎化が主な話題となっていた。首都への一極集中が進むほど投資効率が上がるという事実は初めて知った。私は都市への一極集中は、ある程度のところで土地面積の問題などによって止まると考えていた。しかし実際は何も対策を講じないと、どんどん一極集中が進んでいくと知って驚いた。そして、**現政権が地方創生を謳いながら一極集中を推進している**のも意外だった。日本は地震や台風をはじめとした自然災害が多い。首都直下型地震もいずれ起こるとされている。一部の都市への災害で国の中枢機関が麻痺してしまわないためにも、一極集中は避けるべきだと考える。

ディスカッションのとのことだったが、生徒の発言が少なかった。それに伴って教員も自らの専門分野についてのディスカッションができていない部分があった。全体の人数が多いため、**途中からは興味のある分野ごとに分かれてからディスカッションをしてもよかったのではないだろうか。**

今回は学生の質問に対する回答、ディスカッションでした。学生の人数が多いので様々な質問が出てきて、どの質問も興味深かったです。人によって物事の見方が異なっていたので、これから一つの物事について多くの人と一緒に考える機会を増やしていきたいです。また、同じ学年の中で、地元の問題について真剣に考え、解決案を模索している人がいて、私も地元の問題についてもう少し積極的に取り組まなければならないと感じました。

今回の授業は質疑応答だった。前の課題だった問題提起の内容も学生の質問も徳島に関するものが多かった。そのことから多くの人が徳島に問題意識を持っていたあるいは持つようになったことがわかった。次回は総合科学入門講座の授業が最後なので心して授業を受けたい。

今回の講義ではディスカッションということで、質疑応答がなされていた。私が問題提起させていただいたのは依岡先生宛てであったが、他の学生が他の教授に私とは違った観点から問題提起をしていて興味深く感じた。

ただ、いささか90分という時間では教授も質疑応答に苦労したのではないか。事実、**平井先生に対する問題提起ばかりが取り上げられ、他の教授が取り上げている問題に対しては質問する時間がそもそも取れなかった。**Web上で解答してくださっているとはいえ、直

コメント [y80]: これまでの自民党政権は、公共事業による地方への富の配分、地方の中小企業の保護、都市中間層への減税の三本柱で、国民各階層からの支持を取り付けてきました。現政権も、基本的には都市と地方と両方にいい顔をしようとしているのです。でもそれは、政策としては矛盾する場合があります。

コメント [y81]: 90分で終わらなくてはなりません。それに、話題が分散すると一つ一つの内容が薄くなります。

コメント [h82]: 申し訳ありません。

接やりとりをしたいと考えていた学生たちは少々残念に思ったのではないだろうか。勿論、教授の皆様方にも言えることであるが、積極的に挙手する学生も多く、教授もそれに対し真摯に解答し、議論が白熱していただけにこの90分という時間制限が非常にもったいなく感じてしまった。

コメント [y83]: それ以上にすると、学生も教員も疲れ切ってしまいます。

今日の総合科学入門講座の講義はまとめのディスカッションだった。時間の都合上ディスカッションは平井先生への問題提起だけだったので残念でしたが、それは仕方ありません。ディスカッションのなかであった「移民を労働力として受け入れるのは間違いである」という言葉にハッと気づかされました。「移民」というのは言葉だけであって、結局低賃金で働かせるために受け入れているものであるとわかりました。それは、奴隷貿易とすることは変わらない。昔とやっていることが変わらないのではないか。奴隷制度はあつてはいけないというのは誰でもわかりますが、今でも気づかないうちにされているものであると気づきました。

コメント [y84]: 新聞や本をよく読んで、自分から知るようにしなくてはなりません。

今回の授業ではまず総合科学入門の授業の目的について学んだ。授業の目的とは身につけるべき技術であつて論理的思考力と多面的思考力がある。論理的思考力は説得力のある文章を書くことで自分の主張に論理的な根拠をつけることが身につくようになる。多面的思考力は物事を複数の立場から考えられるようになり自分の立場とは反対の立場を検討することが出来るようになる。この技術を得るには反復練習が必要で今まで毎回授業コメントを書くことで練習してきたということを学んだ。毎回の授業コメントは大変だけれど少しずつ文章を書くのが早くなったので練習は大切だということが分かった。そしてこの授業の目的の理由は民主主義はすべての国民が賢くなければならぬという無茶苦茶な要求をする制度であり、それを実現するのが大学の社会的義務であるからだ。また今回の授業で日本は経済発展のために外国人労働者をとても安い賃金で使っているということを初めて知った。そしてそれが理由で世界から嫌われて労働者の人数が減っているとわかっているのにまだ続けているということを知った。これは早く改善すべきだ。また一極集中が進むかどうかの議論では様々な意見があり人が集まっていることで新しい道路と作らなくてすんだり話し合いがしやすかったり良い面もあるということを知った。しかし今は都会ばかり発展して地方にはお金が回ってこないのを改善していくべきだ。もし将来徳島で仕事をするにしても一回都会に行ったり海外に行ったほうが良いということがたくさん言われていた。私はこの前の留学の話聞いて考え方が変わったので留学についても積極的に考えいきたい。

コメント [h85]: この思いが大事です。

コメント [y86]: コメント y41 を参照。

コメント [y87]: ぜひ「トビタテ！」に応募してください。

授業の目的は、論理的思考力や多面的思考といった身につけるべき技術の習得であり、論理的思考力をつけるためには自分の主張に客観的根拠をつける、多面的思考は自分の立場とは反対の立場を検討する、というような力を身につける方法をこの講義で知ることができた。これからも必要となっていく力であるため、この方法を反復練習し、続けていきたい。

技能実習制度は、低賃金、重労働といった状況が今も続いていて、雇用者は中国人などからカンボジア人などに変わってきていると聞き、低賃金、重労働のような雇用形態は、最近ではブラック企業も厳しく非難されているため、規制され、少なくなっていると思っていたため、驚いた。大都市一極集中問題については、大都市に集中している方が様々なところに道路などの生活の中で必要となる公共のものなどを大都市のみに作ればよいいため、経済的であるとあり、納得した。しかし、日本全体から見れば大都市に集中している方が利得は多いが、それぞれの地域地域で見れば、格差がどんどん広まっていき、結果的には効率が悪くなるのではないだろうか。

コメント [y88]: コメント y41 参照。

コメント [y89]: そんなことはありません。たいていの場合、一極集中の方が富の総量が大きくなります。

今回の授業では、まとめのディスカッションと題して今までの講義の内容について問題提起や提言をして先生と学生とで討論を行った。私は平井先生の徳島の過疎化やシャッター商店街などの諸問題を解決するには一人一人が行動することが大切だという考えに賛同する。なぜなら、それらの問題はとて深刻で行政や民間企業に頼っているだけでは十分でなく、県民一人一人が声を上げて行動していく必要があると考えるからである。

今回は先週の課題での問題提起を元に話を聞いた。

饗場先生に対しての問題提起で国会審議のカテゴリーでの野党に対する「牛歩戦術」ではなく国民の意見を代弁すべきという意見は与党の方ばかり注目していたため自分の中にはない発想だった。野党は与党の「アダアラ」探しばかりで国会でもまともな議論をしていることは少ない。与党も野党も頼れないとなったら、国民の政治意識が下がり投票率が下がっていくのだ。私たちのような若い世代が投票していなくては政治家は高齢者向けの政策しかしない。正しく誰に投票すべきか判断するためにも政治を勉強していくべきだ。

コメント [h90]: 大事なことです！

コメント [y91]: ぜひそうしてください。

今回の総合科学入門講座は、まとめのディスカッションでした。民主主義とは全ての国民が賢くなくてはならないという無茶苦茶な制度という表現にとても納得しました。確かに主権を持つ私たち自身が論理的思考や多面的思考ができないと、日本は崩壊してしまいます。そのために自ら問題を見つけて考えることは大切なことだと授業を通して学びました。

他の学生の提起した問題や先生方の回答をみて、こんな考え方があるのかと驚いたし、自分とは違う視点からの考え方に触れて、考えが深まりました。

今回の授業は、みんなから先生への問題提起についてのディスカッションだった。私は共謀罪について、警察による監視になるのではないかと理由で反対をしたが、**テロ対策に有効**という賛成意見があるということがわかった。こういう場がなければ、一つの問題に対して自分の意見だけになってしまい偏りが出てきてしまうので、みんなの意見を共有して互いに議論する場を設けることはとても重要だと感じた。その問題に対する関心がより深くなる。物事を幅広い視点から見る力も身につくと考える。これからもこのような場を有効的に活用していきたい。

コメント [y92]: 近年欧米で問題になっているのは組織的なテロではなく、動画サイトを見て感化された「一匹狼」による単独行動です。武器を使わず、レンタカーで人ごみに突っ込むなどの行為は、共謀罪だろうが他のどんな手段だろうが、抑止することはほぼ不可能です。

学生皆が色々な問題提起をしていたが、やはり平井先生宛のものが最も多かった。徳島に限ったことではないかもしれないが、生まれ育った地元を愛し貢献したいという思いから徳島大学に入った学生は多い。ただ、活性化を考えると、徳島の何にそんなに魅力を感じているのか分からなくなる。他の土地を知らないから漠然と徳島が好き、と言っているようにしか聞こえないほど具体的なアピールが足りない。徳島に住んで 10 年になるが、その間過疎・少子化問題や地域活性化という言葉を聞くもの目に見える変化はなく、むしろ変化を好まない人々も多い。**全国数ある地域のなかでなぜ徳島なのか**、また本当に県民が徳島の発展を望んでいるのか、見直してみるべきではないか。

コメント [y93]: その観点は非常に大切です。

今回の授業では学生が考える問題について~~ディベート~~**ディスカッション**するというものであった。取り上げられた問題は、私の視点からは思いもつかないものであったり、回答された先生方の意見も自分の今の知識では到底思いもつかないものであった。この授業で、自分の知識の少なさを実感し、**もっと勉強し知識と多様な考えを身につけていくべきだ**

と感じた。

また、今回の授業中に質問できなかったことがある。それは地域活性などの活動を行ったあとの維持についてだ。授業中にも西新町の開発について取り上げられていたが、もし開発したとしてもその後の維持はどうやっていくのかについて具体的に考えていかななくてはいけないのではと考えた。また、以前地域活性のイベントを行ったところに住んでいるひとの意見で、外から活性化活動に関わってくれても、イベントなどが終わったあとは全て地域の人に丸投げで無責任だ²たという意見を聞いた。このように、その後の維持について不満や不安をもった人がいる。そこで、地域活性の活動をその場限りにせず維持していくためにはどうすればいいのか、またなぜその場限りになってしまうのかその原因について質問したい。

コメント [h94]: 時間は十分にあります。

コメント [h95]: まさに、「持続的社会」の構築が大事です。それぞれの地域で持続できる社会づくりが求められています。大都市部だけが恒に右肩上がり、ということはないはずです。

コメント [y96]: まずは、自分なりの解答とその根拠を書いてみてください。

今回の総合科学入門講座はまとめディスカッションであり、主に地域問題について話合った。その中で、地域活性を考えるには外の世界に出てみて視点を増やした上で比較検討するのが重要だと言っていた。

私はこの意見に大いに賛成である。

私自身は徳島県出身である。徳島県が抱える地域問題(人口減少・過疎化・藍などの伝統産業の衰退)を考え、どのようにしたら活性化できるか学ぶにはやはり地元徳島の大学に行くのが良いだろうと考えていた。だが、地元徳島の人間だから徳島のことをよく知っているわけでもないのだと新しくできた県外出身の友達と接する中で気づいた。例えば、その友達に「徳島は風が強いね。」と言われたことがある。私は今までずっと徳島で暮らしてきたのでそれが当たり前だと考えていた。問題を抱える地域の当事者にとっては、『当たり前』となってしまうと問題が起こっていても気がつかないのかもしれないとこの時分かった。今までと異なる環境に身を置くことで初めて地域が抱える問題を認識できるのではないかと考える。県外に出向いていくことで徳島県が抱える問題を認識できる。県外に旅行に行くことも一つの方法であるし、学校が行うプログラムに参加することも視野を広くする方法としてある。地域問題を考えるために積極的に外の世界に目を向けて行くつもりだ。

コメント [y97]: ぜひ「トビタテ！」に応募してください。

今回のまとめのディスカッションでは、学生の関心が特に高い課題が地域活性化問題であったため、それに関連した内容がほとんどであった。その中で、東京一極集中についての話が挙がった。

地域活性化を考える主体はその地域の住民であり、行政や組織がそのサポートをするものだと先生方から指摘があった。私たちは問題に対する解決を全て行政任せにせず、地域

のためにできることを考えなければならない。地域のことを考える時、留学などにより自分の地域だけでなく、他の地域を見ることが大切であり、そうして学んだ考え方を解決に活かすことができる。

解決のため私たち住民ができることとしていざ地域に働きかける際、講義中先生の話にもあったが、一人では実行に移すことは難しい。住民が参加して地域に貢献するためには、地域内での連携や協力が必要になる。地域の人々とのコミュニケーションを取れる場に積極的に参加することも重要なのではないだろうか。

コメント [y98]: あなた自身が「地域の人」の一人ですよ。

今回の講義はまとめのディスカッションだった。一番問題提起が多かったのは、平井先生にむけての地域の諸課題についてだった。その中でも主に、徳島についてのディスカッションをした。どこの地域を考えるにしても、他の地域との比較検討が大事だという。なぜなら、自分の住む地域のことしか知らないと、視野が狭くなるからだ。視野を広くもち、見聞を深めるためにも、一度は外の世界に出るべきである。また、地域の活性化は行政や企業頼みにするのではなく自分達からやらなければならない。何事も自らアクションを起こすことで、自分の周りへと影響を与えられるはずだ。自助→共助→公助の順に物事を考えることが大切である。

コメント [y99]: ぜひ「トビタテ！」に応募してください。

今回の講義はまとめディスカッションで、先生方のいつもの担当とは違うテーマについての意見を聞くことができた。特に印象に残っているのは東新町の“シャッター街”の話だ。私もずっと市内で生活していたので、東新町の“シャッター街”はずっと目の当たりにしてきた。これを放っておいてはいけないという考えから、2007年に音楽ホールを作ると言っていた。しかし、その案ができたにもかかわらず実行に移していないことが問題ではないだろうか。案が出来て、住民に聞き、賛成の声が多ければ実行に写すのは効果があるだろう。したがって、効果的に考えられ、現実的に実行可能なものは実行に移すべきである。

コメント [h100]: この「可能なもの」について、これまでは行政側と地権者とだけで検討されてきたところに問題があったように思われます。「まちづくり」、とくに県都となる徳島市の場合には、場合によっては市民だけでなく県民総意のもとでの議論が必要だったように思われます。そうした開発意志決定などのあり方についても、大学では学ぶことができます。

今回はまとめのディスカッションだった。数人の先生方が一つの議題についてディスカッションした。

その中の一つの話に、都市部への一局集中化についてがあった。自分は都市部への一局集中化は問題であると考えている。都市部へ人口が集中すると過密が起こり、住宅環境の悪

コメント [y101]: それで、失敗したときはどうすればよいでしょうか？

化や渋滞が起こる。また、都市部に重要な施設が集まることで、災害などによって日本の機能がすべて停止してしまう可能性がある。また、首都以外の地域が衰退し、そこにある文化や自然が失われる。都市への人口集中が発生しないように、都市に住んでいても、地域に住んでいても、著しく格差が生まれない社会にするべきだ。

コメント [y102]: ほうっておくと集中してしまいますし、格差も生まれてしまいます。では、「格差をなくす」には、どのようにすればよいでしょうか？

今回の講義は、これまでの講義を受けた上で問題提起を行いディスカッションをするという内容だった。

私は総合科学部の学びについて問題提起をしたが、私が全く考えもしていなかったレポートの書き方についての問題提起や共謀罪についての問題提起など様々な問題提起があり、自分には無い視点から物事を考えることができたため、大変有意義だった。

コメント [h103]: こうした傾聴力は大事です。また、こうした意見をもとに論理的思考力やコミュニケーション力もぜひ身につけてください。

論理的思考力、多面的思考力をつけることが、民主主義を支えることへの順応に繋がるのだという話は初めて聞いた。ストンと腑に落ちた気持ちだ。物事を主張する時は、説得力を持たせなければならないし、反対の主張を無視するわけにはいかない。総合科学入門講座も、もう終盤となったが、改めて講義の意味が理解できたという感触が素直に嬉しい。これからも、大学でレポートや論文を書く機会は幾度とある。この講義で学んだことや、山口教授著の本で学んだことを十分に意識して、これらの経験に裏打ちされた質のよい文章を構成できるように努力していきたい。

コメント [h104]: ありがとう。

まとめディスカッションについて

今回のまとめディスカッションで、地域活性化、移民問題、東京一極集中について取り上げられた。その中でも地域活性化についての話題はたいへん興味深いものであった。なぜかという、地域を活性化するための仕組みが具体的に知ることができたからである。

地域活性化は行政によるもののように見えるが、住民によるものである。行政は請け負いであるから、どれだけ活性化することができるかは、地域住民の主体性にかかっている。また、地域活性化のために、外の世界を観ることも大切である。経験を積み、外の世界を知り、内の世界と外の世界を比較する、ということが地域の活性化につながるのである。

私は、異文化理解について学ぼうと考えている。地域活性化と直接的な関連はないが、外の世界を観て内と外の世界を比較することが大切である点は同じであるので、まとめディスカッションはとても為になった。

コメント [h105]: ありがとう。異文化理解によって、自文化のよさや課題が見つかり、それが地域活性化につながるはずです。

今日の講義は総合科学入門講座を担当した先生方への質疑応答でした。葭森先生の話で、地域活性化は住民中心で、次に行政、大学の順で行うのだとおっしゃっていました。また、大学は地域活性化のモデル提供だと、述べられていました。しかし、住民、行政、大学の順番では、大学は行政が携わったから大学も協力するか、といった印象を持つ。重たい腰をあげるようにして、地域活性化に取り組んでいるように見える。確かに、大学は慈善活動をする団体ではない。地域活性化に取り組む団体や活動は多くあり、その全てに大学が協力することは不可能だ。しかし、行政が乗り出したからといって、後に大学が参加するのは遅い。授業で後から入ってきて、先に聞いていた人に授業内容を聞いているようなものだ。大学は地域と行政の架け橋の役割を持つのではないかと。

山口先生のものまねのクオリティが高かった。もっとレパートリーを増やしてほしい。かなり印象に残り、来年度の総合科学入門講座での生徒が持つ講義の印象を良くできるからだ。

地方創生の問題について、専門分野の違う先生方から意見を聞いて面白かった。

私は中央省庁などの一極集中は改善する必要がないと思う。なぜなら、その方が作業効率がよく、連携が取れるからだ。確かに地方に分散することにより、首都直下地震などの際のダメージは小さくなるかもしれない。しかし、他の地方から尋ねにくいという難点がある。それはつまり、移動に本来なら必要のないエネルギーを使うことであり、地球温暖化対策の観点でよくないと考えられるからだ。

読書に対して否定的な人が多いことは、良くないことである。学生としての読書は娯楽で行うものではなく、知識得て、自分の思考を深めることを目的とするからだ。最近では電子書籍の流通が伸びているが、何度も読み返すことを考えた場合、さっと手に取ることができる紙辞書の方が便利である。

今回は今までの授業のまとめのディスカッションという形で、各教授と学生たちの意見交換ができた。授業の中で私は何か意見を発表することもなかったが、自分の中でそれは

コメント [y106]: 大学の先生も「地域の住民」の一人です。一人の人間が、いくつもの立場から問題にかかわることができるでしょう。

コメント [h107]: これ以外にも、大学が地域や行政を後押しすることもできます。

コメント [y108]: 某先生には秘密にしておいてください。

コメント [y109]: なぜ集中してしまうのか、そこにはどんなメリット、デメリットがあるのかを総合的に考えたうえで結論を出す必要があります。

コメント [h110]: 「大きな政府」「小さな政府」という考え方もあります。日本などは前者ですが、行政の権限を最小限にする「小さな政府」を志向する国々もあります。

コメント [y111]: 上記の平井先生のコメントについて、補足しますと、日本は人口当たりの公務員数が世界で最少レベルです（OECDのデータによると、世界平均の三分の一に近い）。人員規模からすると、「異常なまでに小さな政府」です。私の『人をつなぐ対話の技術』133頁の注75を参照。「小さな政府」は、財政的な誘導措置を取りにくいなどの理由から、強制的になりがちです。

何故かを考えていた。私がとくに何か発表して、教授からの意見や考えを聞こうとしなかったのはただ単純に私自身の中で、地域の問題やそれに対する自分の考えがなかったからだ。だが、今までの授業やレポートなどでも地域の課題について自分の興味関心や意見を少なからず考えてきた。それなのに、いざ教授と意見を交換できる機会があったにも関わらず、私の中には「自分の意見」というものが浮かんでこなかった。それは今までの自分の取組がただただその場しのぎの行為であり、その結果自分の中での考えというものを深めることができていなかったのだと自覚することとなったと同時に、授業中、そして授業が終わってからも「考える」ことができた。

「地域課題」について私の一番関心があることは「地域のために私にはいったい何ができるのか」ということだ。私の周りにも地域の課題は多く存在する。徳島県でも、県を盛り上げるための活動はいくつも展開されている。「徳島県にしかないもの」を探すことから、実際の上勝町の「葉っぱビジネス」や神山町の「サテライトオフィスの誘致」など、「そこにしかないもの」を活かした取組が行われている。これらの地域活性化の成功例から、自分が生まれ育った町の活性化について考えてみたが、「私の暮らす町にしかないもの」を考えたことも、知らないことに気づいた。「地域活性化」というものが重要である、と知ってはいたのに今まで一度もそれが自分の町のこととしても当てはまるのだと認識したことはなかった。

現在日本では「学生による地域おこし」が行われている地域も多い。例えば、長崎県野母崎地区を中心に活動を行っている JaPaNiPoST(ジャパニポスト)は、学生たちがコーディネーター/プロデューサーとなって挑戦する町おこしとしてのギネス世界記録に挑戦する取り組みを展開している。これは学生たちが、『地域と共に“世界一”に挑戦し、その挑戦までの軌跡、物語を、“デジタル”の力で日本へ、世界へ発信すること。たくさんの人に、元気を届けること』を目的とした企画である。そして、同企画は、ギネスワールドレコーズとデジタルハリウッド大学が後援しているプロジェクトでもある(OFFICIALLY AMAZ

IN「学生プロデュースによる町おこし、ギネス世界記録挑戦 2014年7月11日」,G<http://www.guinnessworldrecords.jp/news/2014/7/japanipost-58705/>,2017年6月25日アクセス)。この取組のように日本、そして世界にまで情報発信や活動を広げている学生団体は少ない。「地域を活性化しなければならない」。そんなことは分かっているものの実際の私は、自分のこととして感じ、考えることも、なにかしようと動き、働きかけることもなにもしていない。地域のために自分にはなにができるのか、そのたぎるような情熱を持ち、自分の町の「ここにしかないもの」を探すことからまずは始めたい。

今回の総合科学部入門講座はまとめのディスカッションであった。私がした問題提起は平井先生に対して地方の過疎化についてであった。私や私と同じ問題提起をしている人の

コメント [y112]: とてもよいことです。「自分がなにができるか」「自分が何をすべきか」を常に考えましょう。

コメント [h113]: 知らなかったですが、おもしろそうですね。やり遂げたときの達成感が楽しそうです。

考えた解決方法は公共交通の整備や企業誘致や観光振興など行政に頼るものばかりであったが、平井先生の意見では地方の活性化を促す一番の方法は住民が積極的にそれに取り組むことであった。確かにそこに住んでいる人が何もしないではその地域が活性化するわけがない。商店街などその地域が衰退しているのを一番に感じ取り気づくのは住民であるため解決できる可能性を高く持っているのも住民である。私も地方の活性化の方法を考えるだけではなく、それを実行していかなければ意味がない。

コメント [y114]: 具体的にどんなことを考えて、どんなことを実行しますか？

今回の授業で印象に残っているのが、都市の一極集中を解消すべきかどうかという問題だ。

大災害が都市部を直撃した際、国家機関を始め、大企業やそれにとまなう多くの人々が混乱し、麻痺する。これにより、国自体の再建が難しくなる可能性がある。地方にこれらの機関を分散させておけば、国内で災害が発生しても、他の地方でカバーし合い、素早く復興できる。

以上の理由から、都市の一極集中は解消させるべきである。

コメント [y115]: コメント y34 を参照。

前回のディスカッションについて、地域の問題点を発見、解決するためには外の世界を知ることが大切だという意見に賛成だ。なぜなら、自分の住んでいる地域の問題を発見するためには、自分の住んでいる地域と他の地域を比べることが大切だからである。住んでいる地域の問題点は、日常的に触れ合っているために、ある種の「当たり前」になっていることがある。その「当たり前」という感覚を壊し、問題を見つめられるようにするためには、やはり他の地域に身を置き、自分の地域の問題に対する客観的な視点を獲得するしかないだろう。また、問題の解決策についても、他の地域の問題解決プロセスから学ぶことができるため、やはり外の世界を知ることが地域問題の解決において大切である。

コメント [y116]: ぜひ「トビタテ！」に応募してください。

今回の講義ではこれまでの総合科学入門講座の内容について生徒と教授が意見を交わしながら考えた。私が最も印象に残っているのは女子生徒が意見した西新町の開発についてである。私は以前徳島の街を知ろうと自転車でいろいろなところを回ってみたことがある。駅の周りは店も多く栄えている印象であったが、商店街なのにシャッターがしまった店が目立つ一帯があったのを覚えている。現在の知事はそのあたりの開発を公約にしていたのは知らなかったの、このシャッター街の場所がこのままでは勿体無いと感じて

いたので、公約だけしてお金がかかるから進めていないと聞き、お金がかかるというのは開発をするその時の一点にしか視点が置かれておらず、長い目で見ればその場所を活用して観光客を集めて徳島をもっともりあげていけると考えた。実際、私の地元である松山にも大街道や銀天街、ローブウェイ街といったような商店街があり、一時期シャッターが閉まった店が目立つ時期があって、その時は人通りが少なかったが、改修され、新しい店ができてからその一帯は観光客や地元の学生が訪れていて盛り上がりを見せている。もちろん開発というのはお金がかかるものであるが、長い時間をかけて開発にかかったお金は観光客などを集めることでゼロに戻していけば良いのではないだろうか。

コメント [y117]: 文が長すぎる。短く切って接続詞でつなごう。

コメント [h118]: よく賑わっています。他市の中心商店街と何が異なるのか、を調べてみると、なお活性化するかもしれません。

今回の授業ではディスカッションを行なった。最初はこの授業がどのように進んできたのかを確認した。この授業の目的は大学生として自身の主張に客観的な根拠をつけること。またそのために自分の立場と反対の立場を検討する多面的思考を身につけることである。民主主義社会を支えるに生きるにはすべての国民は賢くなければならない。この場合の賢さとはが自分の意見を客観的に主張できることである。つまり私たちはこの授業で民主主義社会で生きるために必要な技術教養を学んでいたのである。

ディスカッションでは非常に興味深い話を聞くことができた。内容は地域活性化についてと外国人労働者についてだった。まず話が上がったのは地域活性化についてであった。活性化と言ってもそれは行政が行うものではなくそこに住む住民が行うものであり、その住民にどのようにして主体性を持たせていくかが問題である。しかし住民は行政に任せようとしてしまう場合がある。そこに住民と行政との認識のズレができているのである。そしてこのような活動は本来は

「住民」→「行政」→「大学」の順で行なっていって大学が一番後追いなのである。住民は自分たちで何か活動を起こす。行政はその住民が活動しやすいように場を整える。では大学が行うことはというと、大学の仕事はその活動をモデル化することである。この話については私は目から鱗であった。私はてっきり大学が初めの活動を行なっているものだと考えていた。しかしこの話により、自分はどの立場で活動したいのか、また活動しなければならないのかと考えるきっかけとなった。

次は外国人労働者の話についてだが耳が痛い言葉があった。それは、日本人には優秀な人材を扱える度量がないのではというものである。確かに私も外国人が観光に来てくれるのは嬉しいけど日本にきて仕事を奪っていくのは嫌だという幼稚な考えを持っていた。まさに器の小ささがわかるような考えである。外国人に自分たちがやりたくない仕事をやらせるなんて考えは今すぐ捨ててより知的な活動を外国人の方と行える人間になりたいと思わされるいいディスカッションであった。

コメント [y119]: コメント y41 を参照。

今回の総合科学入門講座では、「まとめディスカッション」と題して、今までの授業内容をもとに、先生・学生間で議論が行われた。具体的な内容としては、東京一極集中は食い止めることができるのか、地域を活性化するためにできることは何かなど、主に地域課題を中心として議論が展開された。

その中でも私は、「自分の地域のことを考えるには、まず外の世界を経験してみることが大切である」という考えに賛成である。具体的に、外の世界とは、トビタテ留学 Japan などを利用して海外へ行ったり、国内でも東京をはじめとする大都市圏へ一度出てみたりするということであった。一度そのような経験をして再び地元に戻ることで、自分の街に足りないもの、それに対する改善策を新たに見つけることができる。これは、都会に限ることではない。私自身、徳島県外の出身であるため、大学入学後の 2 ヶ月間で地元の街の住みやすさ、人の良さを実感した。反対に、徳島県には地元にはない地方の取り組みが多く行われており、地元にも生かせるものがいくつかあった。私は将来地元に戻り、まちづくりに関わっていきたく考えているため、県外はもちろん海外の世界も経験し、地元の活性化に生かしていきたい。

コメント [h120]: 大事な体験になります。

コメント [y121]: ぜひ「トビタテ！」に応募してください。

今日の授業で徳島の活性化についてのディスカッションをしたが僕は自分の出身の兵庫県について考えた。兵庫県をさらに活性化させるためには歴史的な建造物などをもっと PR し、多くの観光客を呼び込むべきである。そうすれば今よりもっと兵庫県全体として活性化していこう。

後付けになるが今日の授業で周りの人たちとディベートする時間を多く設けて欲しかった。そうすることで他人の意見を聞くことができ、さらに深く考えることができた。

コメント [y122]: コメント y27 を参照。

コメント [h123]: 次回への反省点とします。

今日の授業はディスカッションをするはずだったのにも関わらず、私たちにはディスカッションをする機会をほとんど与えられず、ディスカッションしているのは教員方だけ。おまけに、写真まで撮りだす。さらに言えば、平井先生宛の問題提起に会話の内容が偏り、ほとんど徳島の話になり、徳島以外のところからきている私には、どこの地域のことを言っているのかわからないため、この授業にあまり関心を持てなかった。まったく何をしたいのかわからなかった。学生同士で考えさせる時間を設けたり、他の教員の問題提起にももう少し時間を割いたりしてほしかった。また、いろいろな地域から学生が来ていることも考えて授業をしてほしかった。

コメント [h124]: ディスカッションの方法については、今後検討します。学生からの質問がたまたま徳島を取り上げたので、話の流れとしてそうなりましたが、徳島と共通する「地方」の課題として話したつもりではありません。

コメント [y125]: コメント y27 を参照。

コメント [y126]: コメント y31 を参照。

前回の授業はいままでのもとのことだった。時間が足りないのではないかと考えていたが、案の定 1 時間半では、あまり話しあうことができなかった。複数の先生が来ていたので、地域の活性化について以外の話題についてももう少し聞いてみたかった。特に、共謀罪や民主主義についての話は、講義の時も少し時間が足りず、話し切れていない様子だったので、改めて聞きたかった。

学生個人も質問をしていたが、先生方の話が一番長かった。マイクを奪い合うようにしていたので、先生の人数が少し多いのかもしれない。各先生に話したいことがまだある、というように見えた。

コメント [y127]: コメント y27 参照。

コメント [h128]: 教員の気持ちを察していただき有り難うございます。マイクを持つたら離さないという教員の悪い性癖が出たかも知れません。反省。

今回は、これまでの授業に対して学生が問題提起をして先生が答えるという授業だった。私は依岡先生に問題提起をした。そして、同じような疑問を持っている人が多いことに気づけた。その問題はどうすれば学生が本を読むようになるかというものだ。答えとして、読み聞かせなどをして子供が本に触れる機会を増やすということや学校の図書館を充実させるということがあった。この 2 つに関しては、特に共感することができた。確かに小さいときから本に触れてきている人は、今でも本が好きな人が多いように感じる。幼稚園などで読み聞かせをしてもらったことのある人は多いかもしれないが、そこから小学生、中学生になるにつれて、本とは別の他のものに関心を持つようになる。だから、ちょうどその境目で本と触れ合わせることがより大切だろう。また、図書館を利用する機会が少ない学生が利用したいと思えるような取り組みが必要となってくるだろう。そうすれば、自然と本が目に入り、手に取る機会が増えるのではないだろうか。ここで改めて読書の大切さを学べたので今度こそ諦めずに読書をする習慣を身に付けたい。

地域活性化についてである。授業コメントでは多くの学生が行政頼みの発想だった。しかし、行政は地域の自主的な活動の後追いになる。地域活性化は行政の問題ではない。自助ができなければ共助、それが出来なければ公助になる。まず、その地域に住む人々がどうしたらいいのかを考えなければならない。目先のことだけを考えるのではなく、将来のことを考える必要がある。そして、自分の地域を良くするためには、他の地域を知らなければならない。自分の地域と他の地域を比較する。外の世界を見て、得た視野を生かしていく。大学生活の貴重な時間では、視野を広げていくことが重要である。東京一極集中で

あるため、東京と同じことをするのではなく、別のことをしていかなければならない。一人一人がどうしていけばいいのかを考え、**住民の意見を地域に広げていく**。

コメント [h129]: 将来、自分がどのような立場でこうした意見を集約化していくかも考えてみてください。

今回のディスカッション形式の講義は大変有意義だった。なぜなら自分とは違う意見を知ることができるからだ。反対意見はもちろん、自分と同じ賛成の立場であっても、賛成である理由は異なることもある。特に自分の意見とは全く違う視点からの意見は参考になる。これらの自分にはない新たな意見は、自分の意見には足りないものを気づかせ、また、足りないものを補うための手掛かりを与えてくれる。

今回の都市への一極集中の問題にしても、人口面の集中と経済面での集中と 2 種類の視点が存在した。**このように多面的な視点**を与えてくれる良い機会になる。

以上のことから、このような形式の授業をこれからも展開してほしい。

コメント [h130]: 「総合科学」の真骨頂です。

共謀罪について質問したかったこと

共謀罪が強行採決されたことが問題となっており、いろいろなところでたたかれています。僕は採決されてよかったのでは?と思っています。

テロ組織がテロを計画→じゃあそのために爆弾を作るぞ→材料を準備

というテロまでの一連の流れの最初の、材料を準備の時点で逮捕が可能になるというのが共謀罪だと認識しています。私たち、一般市民が生活するなかで、共謀罪によって未然に犯罪を防ぐことができるようになるのであればいい法律なのでは?

また 2020 年のオリンピックの影響で、様々な主義主張の人々が日本を訪れるようになる。なにか起きてからでは遅いのでは?

コメント [y131]: コメント y64 参照。

今回の授業で、経済の一極集中についての議題が取り上げられた。現在の日本は、東京や大阪などの大都市圏に経済力が集中し、地方の衰退が徐々に進んでいる状態である。この経済力の一極集中はこの先続くか、止まるかという問題が授業で問われたが、私は続くことに賛成だ。その理由として以下のことを挙げる。まず、地方に分散させるとなると、交通整備やネットワークの構築が必要となる。その際、言わずもがな多額の費用がかかるが、日本は既に多くの借金を抱えている状態だ。そのような状態で都市分散の計画を進めれば、今の若者に益々の負担がかかるだけである。加えて、授業でも言われたように、一極集中している方が効率が良い。しかし、一極集中することで都市と地方の経済格差が拡

大するという問題点もある。これに関しては、**地方への利益還元ルート**をしっかりと構築すれば解決するのではないだろうか。

コメント [y132]: 具体的にどんなことをすればよいですか？コメント y55、y34 を参照。

今回の授業では、学生の問題提起に対して先生が答えるものであった。分野に応じた学生の問題提起に答え、学生の疑問を解決していくものであった。また、学生と先生とのディスカッションのようなものも行われた。例えば、新町川周辺の再生という議題では意見を持った学生と先生が協議しており、学生が意見を表す良い場であった。学生が問題提起するということは大事なことである。問題提起するということは物事に関して疑いの目を持っているということである。世の中にある情報は常に正しいとは限らない。**差し出された情報**が全て正しいと受け入れてしまわずに本当に正しいのかと疑い自分なりに考え判断する力が重要である。学生は常に生活の中で問題提起することを心がけるべきだ。

コメント [h133]: 情報は、まずは自らが客観的なデータを収集することが望ましいです。伝聞や SNS はほどほどに。

今回の授業では、まとめのディスカッションということで、これまで講義をしてくださった先生方にお越し頂きました。普段の授業とは違い、議論形式の授業でした。初めのうちは先生方同士で話されていましたが、**なんのことに**ついて議論しているのかよくわからなかったのと、**生徒が発言する場があまりなかった**ので、**なんだか勿体無い**と思いました。事前課題で、同じような議題を提示した生徒同士でグループを作るなどした方が良かったのではないのでしょうか。

コメント [y134]: コメント y27 と y31 を参照。

今日の授業はまとめのディスカッションということで、先生方が生徒の質問に対して答えるという内容だった。ほとんど地域活性化についての質疑応答だった。私は将来地元を活性化させる活動に携わりたいと考えているため、この内容はとても興味深かった。地域を活性化させるには、まず自主的に動いて、そこから周りからの助け、公的支援と広がっていくとわかった。私は地域を活性化させたいと言いながら、口だけで何も行動に移せていない。まずは自分なりに活性化のための案を考えるために、もっと地元のことについて知らなければならぬ。また、地域のことをよく知るために、外の世界を見てくることも大事なことだと学んだ。私は、留学には興味がなく、いく気も一切なかったが、留学をすることにより、自分の地域の現状を知ることができたり、留学によって得た視野を行かせたりできるのならば、**いく価値はあるのだとわかった**。

コメント [y135]: ぜひ「トビタテ！」に応募してください。

今回は、**ディスカッション形式**で行われたがあまり、学生が意見を言う場が少なかった。そこが問題であったが、様々な領域から一つの問題について考える機会としては、とても貴重な時間であった。私たち学生は、少ない知識と狭い領域でしか物事を考えられないため、意見や考えが似たようになってしまう。しかし、教授の考えを聞き、幅広いとらえ方があることを知ると、今まで一つの問題に対して一つの答えしか浮かばなかったが、様々な方面から問題をとらえ、多くの解決方法を見つけることの大切さを教わった。知識も少なく、考え方が一通りになりやすいいため、これからは**他人の意見を受け入れ、社会の問題解決に努めていきたい**。次回、ディスカッション形式で行う場合は、ほかの学生の意見を聞ける場を増やしてほしい。

コメント [y136]: コメント y27 を参照。

コメント [h137]: 自ら、問題関心事について調べる姿勢も大事です。

今回の授業では生徒の質問に先生方が答え、さらに生徒が質問をするといったものだった。前回の授業は休んでしまったため、話を理解できるかどうか不安だったが、先生方が分かりやすく丁寧にお話をしてくださったので、概ね納得できた。どの先生のゼミも聞いてみたいという気持ちが生じた。だが、先生方の真剣なお話により、できる限り、より自分のスキルを向上させることができるゼミを選択したいという気持ちも強くなった。

今回の授業では今までの授業内容についてディスカッションをし、学生がどのようなことに興味を持ち、問題と思っているかを知ることができた良い機会であった。私は饗場先生に政治の関心度や投票率の低下について前回の授業コメントで問題提起をした。饗場先生宛には他にも共謀罪やマスコミのあり方についてなどが寄せられていた。学生からの問題提起を最も集めたのは平井先生であった。平井先生宛には過疎と都市集中・地方の活性化・少子高齢化などについての提起が多かった。授業でも主に平井先生宛の問題提起を基にディスカッションしていった。学生の発言の中には自分の住んでいる地域の政治について疑問や意見をしっかり述べていたりして、私は普段自分のまちでどのような政治が行われているか具体的に知らず、またあまり関心を持っていなかったのがこれからはしっかり学んでいきたい。そして私たちは地域のことだけでなく**社会全般のことに関しても関心を持って、積極的に問題提起できるようにしっかりと学習**していくべきである。

コメント [h138]: 期待しています。

今回の講義は前回の授業コメントで提起された問題や課題に対して、話し合うまとめディスカッションであった。私の提起した課題は取り上げられず非常に残念であった。しかし大学生になり一人暮らしを始めて、意見を聞き会話する相手は同年代ばかりであった私にとって、大人の方それもより深い知識を持っていらっしゃる先生方の話の時間は貴重で有意義であった。

コメント [h139]: ありがとう。

過疎化はダメなことだと思う。私は高知から今年の春に徳島に来た。高知県も過疎が問題となっていた。高知市には割と人がいるが、その他の市町村の人の少なさはひどい。少子高齢化も進んでおり、稼ぎ手となる若者は仕事を求めて都会に行ってしまう。悪いことばかりだ。

コメント [y140]: ではどうすればよいですか？

今回はまとめのディスカッションをした。特に、地域課題についての話であった。地域課題を解決するためには、留学をすることで視野を広げ、地域課題を客観的に考えてみるのが良いと、先生方がおっしゃっていた。留学というと、語学や異文化などを学ぶものと考えていた。しかし、留学することで改めて地域のことを考え直すことが出来ると分かった。私は留学に興味はあるが、不安なども大きく正直迷っていた。しかし、今回の講義を聞き、留学に挑戦してみたいと強く思った。

コメント [y141]: ぜひ「トビタテ！」に応募してください。

今日はまとめのディスカッションを行った。先生宛の問題提起に偏りがあってびっくりした。私は平井先生へ提起をしたが、他の人も同じ考えだったようだ。地域貢献について考えることはみんな似ていた。他の先生へ宛てた問題提起も興味深かった。発言はしていないけれど同年代の子の考えがわかる良い機会となった。

今回の授業では、今までのまとめやそれに対する議論、質問を行なった。まず、課されていた4つのレポートへの応答があった。その中でも特に提出した人の多かったレポートが、平井先生の徳島または出身地などの地域の抱える課題についてのレポートだった。このことから、多くの学生が自分達の地域について考えていたということが分かった。さらに「地元か大都市かどちらで将来働くか」という先生の問いに対し、多くの学生が地元であ

ると答えていた。総合科学部の学生は地元志向が強いのだろう。次に、学生から先生へ質問する時間があった。実際に何人かの学生が質問していたが、私は質問できなかった。私はあのような場で発言をすることは苦手であるが、そのような行為は将来必ず必要なスキルである。もっと積極的に発言をすればよかったと後悔した。これからこのような機会があれば、恥ずかしがらず質問や発言などをできるようにしたい。

コメント [h142]: 大人数だとさすがに難しいですが、後期は少人数ゼミです。ぜひ、積極的に参加して下さい。

国際政治、地域研究、読書のススメ、レポートの書き方講座という総合科学部入門講座の題目全て、私たちが社会に出て問われる力の一部分を、ここで知ることができた。

少し前の頃の話になるが、文系学部縮小の方針が取り勧められていった。なぜそうなったのかというと、文系学部でえるチカラが、日本社会で役に立つかどうかというところがあるからだ。私はこの捉え方に大反対だ。たった少し先の未来を見据えただけで切り捨てていいほど、役立たずな学問ではない。

第一に、国際社会を生き抜く力が、文系学部で得られる。技術力を上げていくことを目当てとした理系学部の指針では、世界を相手にするのはほとんど学術の発表や論文の公開をするときだけだ。国際関係について議論を行う文系学部のスタイルなら、悠に役に立つかどうかで言えば勝る。

第二に、専門知を持たず、常に多角的に課題解決に取り組める利点が、文系学部にある。ある分野ではずば抜けて専門知を持っていて詳しいが、別の分野ではからっきし。では今の時代ではあんまり意味がない。情報社会の発達した今のご時世、「検索」さえすれば全ての知恵知識が得られるのだから。多角的視点によって、私たちはインターネットにも教科書にもない新しいものの捉え方を得られる。これは、異文化との関わりがある社会の中では必須であろう。

コメント [h143]: もちろん、多角的視点は大事ですが、それぞれの意見・考え方をどのように整理し、論理立てて合意を得ていくか、という手続きを身につけることも大事です。

以上の点で、文系学部は、切り捨てるに惜しい学問の類に分類できる。

総合科学部では、第二に上げたような形で、様々に学問を統合して考える力を身につける。これからの学びが楽しみだ。

コメント [y144]: 「切り捨ててはならない学問」ですね

まとめディスカッションで一つの議題だけをずっとしていたのが悲しかったです。時間配分を考えてせめて学生に発言の機会をもう少し多く、与えるべきではなかったでしょうか。

私はこれまでに総合科学入門で学んできたことの中で 1 番自分のためになったと思うのはレポートの書き方講座でした。私は文章を書くことが本当に苦手です。しかし、書いたあとで必ず推敲するようになりました。講座の中で山口教授に「感想は根拠ではない」「根拠のある文章を書くように」と言われ、初めは何をどのように書いたら良いのかわかりませんでした。未だに「～と思う」と書いてもそのあとで根拠となる理由があれば良いのではないかと、思ってしまう。できるだけ根拠のある、人を納得させられるような文章を書くようには心がけているのですが、**どうしたら万人が納得できるような文章を書くことができますか。**

コメント [y145]: 練習あるのみです。それから、普段から新聞や本を読み、知識と考え方を身につけることです。コメント y39 も参照。

今回の講義では、これまでに行った講義のディスカッションをした。

私は、饗場教授に集団自衛権について質問するつもりだったが、自分から質問することが出来なかった。恐らく、**自分の中でまとめた意見に自信がなかったからだ。**また、周りで質問する人がいたので、乗じて自分もするべきだった。今回、出来なかった分、ゼミ等では自分から発言する機会を多く持てるようにする。

コメント [h146]: 「質問」は「コメント」とは違います。なので、まずは、わからない言葉（専門用語）や相手の意見等について「説明して欲しい」とお願いする姿勢が大事です。そうした質問を繰り返すうちに、相手が何を言いたいのがわかり、コミュニケーションのコツをつかむはずです。

後、直接今回の内容には関係ないのですが、全体講義において**最後方の席での雑談が喧しく周りに支障をきたしています。**

コメント [y147]: 了解です。次回、最終回ですが注意しておきます。

今回の授業はまとめのディスカッションでしたが**ディスカッションというよりは先生方の弁論会**のようになっていた。質問がないから手を挙げていないのに無理やり当てて質問させるのはやめたほうがいい。

コメント [y148]: コメント y27 参照。

授業はこれまでの話のまとめで、生徒がその話に興味するというものだった。

一人の生徒が**「VS 東京」**について、どうすれば東京に勝てると思いますかという質問をしていたが、VS 東京の本質は東京に勝つことではないと考える。VS 東京は地方の魅力を都市である東京と比較し、都市生活者にアピールしていこうというものである。また、何をもって勝ちとするのかわからない。

コメント [y149]: コメント y14 参照。

まとめのディスカッションというテーマのはずであったが、学生側の発言の機会も少な

コメント [y150]: コメント y27 参照。

く、教授陣が楽しくディスカッションしているだけだと感じた。学生がもっとディスカッションに参加しなければ、90分話を聞いて終わりという人も出てくる。少しがっかりした。次回 6/30 で総合科学入門講座は終了するのですか？

コメント [y151]: あなたは積極的に手を挙げてくれましたか？

コメント [y152]: そうです。

今回の授業は、そもそもの総合科学入門講座に対するまとめと、先日の課題であった学生の問題提起に対する先生の回答であった。

まず、まとめについてだが、この授業の目的として論理的思考力と多面的思考力を養うことである。なぜこれらを身につけなければならないのかは、日本では民主主義が推し進められているが、民主主義は国民が賢くあらねばならないので、その実現のために大学の社会的責務が求められているからだ。

コメント [y153]: 日本だけでなく、世界的に、民主主義を破壊しようという動きがあります。欧米では「ポピュリズム（大衆迎合）」による「移民排斥」などが問題になっていますが、日本の場合には、自民党に対抗する政治勢力がないことから、国家権力の乱用が問題になっています。

学生の問題提起に対する先生の回答についてだが、私が重要であるべきものがあった。それは、山口先生の先日のレポート課題のことだ。学生が、なぜ犯罪認知件数をレポート課題にしたのかについて、先生は統計データの解釈の練習として適切だからとのべた。そのなかで、練習をするという点が非常に大事であるはずだ。なぜなら、これからの大学生活の中でレポートを書くにあたって、統計データは必要であり、そのためにもデータを正しく解釈する力は必要不可欠だからだ。

今回の授業では、まとめとして、地域の課題についてディスカッションを行った。日本の移民問題や、大都市圏への一極集中、VS 東京に関することなど、様々な話題があった。序盤、外からの目、外の世界を知るというワードが出てきた。一度徳島から出て、徳島の外の世界を知ること、それを利用して徳島を活性化することが必要だ。地元の良さや悪いところというものは、そこを離れて、ほかのところと比較して初めてわかる。自分のことは自分ではわからない。客観的な視線が必要だ。留学などで視野を広げ、外からの視線を培っていくことが今後の課題だ。

コメント [y154]: ぜひ「トビタテ！」に応募してください。

今回の授業はまとめのディスカッションであった。ディスカッションとは、事前に先生方への問題提起を入力しておき、それらに先生方が答える時間と、直接先生方に質問できる時間が設けられていた。これまで総合科学入門講座では授業コメントのやりとりで質疑応答が行われていたが、今回は質疑応答がリアルタイムで行われていたため、他の生徒の考えていることを知る良い機会となった。

今回の授業中で最も驚いたことが、これまで授業でも授業コメントでも度々教えられているにも関わらず、山口先生に向け、思うと考えるを使ってもいいのではという内容の問題提起をした生徒がいたことである。レポートの書き方講座の授業コメントでかなり見かけた(私もした)質問であったが、まだ同じことを質問している人がいる。それは、毎回の授業コメントと返信を確認していないということではないのだろうか。また、「思う」と「考える」についてしつこく説得し続けているようにも見える。そういった人は「思う」と「考える」を使いたいがために質問を続けているのであろうが、「大学のレポートでは使ってはいけない」と教えられたのだから、いい加減使えるようになることを諦めて、**おとなしく反復練習をすべき**である。

コメント [y155]: そのとおりなのですが、やはり、自分がやっている練習の意味を自分で納得してもらわないと、身につけません。なので、しつこいようですが、毎回丁寧に回答しているのです。

今回の授業の内容は、前回の課題の先生に問題提起した内容に対するディスカッションであった。中でも地域創生には、自治体だけでなく住民の協力を必要とすると**ゆ**うことは、強く共感した。自治体の考案する企画や、政策は住民の参加、協力が必須であり、住民を惹きつける企画らを出すことは、自治体のすべきことであるが、優れた案がでたとき、その発展、後見は我々住民の責務であると考えからである。

コメント [h156]: 「い」

地域活性化というのは難しい問題だと思った。私の祖父の実家は木屋平にある。そこは**三木家住宅という国指定重要文化財がたくさん残っているし、素晴らしい自然でいっぱい**だ。畑の為に何度か訪れ、私もそれについていったりするが、もう近所の住民は一人しかいない。本当にいい所なのだが、人を戻すのは難しいと思う。店や電波はないしどこに行くにも遠いというのは不便だからだ。私もたまに行くのは楽しいが住むのは別だ。今後更に過疎化が進んでしまうだろう。祖父の家も近所の家も帰る人がいなくなれば草生え放題の無法地帯となり人々の記憶からも消えてしまうのか。とてもさみしい。

コメント [h157]: 地域資源には恵まれています。まずは、他地域にはないこうした試算をどう活かすかでしょうか。

せめて**国指定重要文化財**をもっと PR してはどうだろうか。

コメント [y158]: 奈良や京都には国宝や重要文化財が何百件もありますからね…。

今回の授業では、前回の課題の先生に問題提起した内容に対するディスカッションであった。私は地方創生に関心があるため、今回のディスカッションは自分の考えに大きな影響を与えた。

印象に残った話が2つある。

まず、地方を活性化するためには県や市町村の働きではなく、その地域の住民がいかに

行動するかが大切であるということだ。各市町村がどれだけ工夫をして町おこしをしようとしても、住民が非協力的であれば町おこしは、はかどらず失敗に終わるだろう。過疎化や少子高齢化について、問題であると住民が感じているのであれば他人任せにするのではなく、自分たちで行動する以外解決しない。だから、そのことを周りの人間に私たちから発信するべきであるのだろう。

次に、自分の地元を活性化させたいのであれば、その地域にずっと住んでいるのではなく、別の都道府県や海外に住み、自治体がどのような政策を行なっているのか、または住民がどのような取り組みを行なっているのかなどを実際に見て体感して来るべきであるということだ。私は徳島出身であり徳島で徳島のために働くことのできる職に就きたいという目標があるため、県外にも海外にも出ることなく過ごそうとしていた。しかし、今回の話を聞いて、海外や県外に目を向けてみるべきだという考えができた。大学在学中に一度は短期留学し、海外の現状に目を向けてみたい。そしてそこで得たことを、その後の学習や就職後に生かすことができるようにしたい。

コメント [y159]: 短期の後には長期にもチャレンジしてみてください。

1、授業内容は、主に学生が manaba のコメントで言及したものについて教授が回答・補足説明していくものであった。山口先生がカテゴリーに分けて、スライド自体に回答が書かれているものもあれば直接答えるものもあった。後半は地域(徳島)について意見交換した。一極集中は止まる・止まらない派がいた。一極集中を止めるならば、「もうこれ以上都市に人が入れないから地方に来た」ではなく「地方のこういう所がいいから地方に来た」にして止めなければならない。

2、地方問題への言及に対する回答というか、後半は徳島について考える場だった。

3、一極集中の話も取り入れて学生も手を挙げてとじていたが、もう少し徳島以外の話でも良かった。U ターン・I ターンの話や神山のサテライトオフィス(これは徳島関連だが)の実情も話せば良かったのではないだろうか。

コメント [h160]: 地域活性化に関しては、2 年次前期の総合科学実践講義の中で「地域創生論」をはじめとして、いくつかの講義が用意されています。

コメント [y161]: そうですね、話してくればよかったです。

今回の授業ではディスカッションを行った。最初、先生は課題提起をまとめくれた。その後、課題提起について討論した。授業の時間が 90 分しかなかったので討論が途中で終わった。そのために、ディスカッションすることが感じなかった。ディスカッションを行えば 2 回の授業を行ってほしい。なぜなら、問題点について詳しく討論することができるからである。問題提起は未解決問題で、誰でも正しい解決方法を知らない。説得力がある方法を見つけるために、討論中に生み出した問題点を基づいていくことは時間がかかる。そのために、短い時間で言えば、仕事を途中で辞めるのと同様ようである。

コメント [y162]: 検討します。

コメント [y163]: 事前に「問題提起」「自分なりの解答」「その根拠」を書いてもらっています。

今回の講義ではまとめディスカッションを行なった。これまでの授業を通して各教授への質問を先に提出してそれに答えてもらえる機会があった。また、マイクをもって実際に話し合える場でもあった。質問ではかなり厳しい意見等を述べる人もあり驚いた。はっきりと意見を述べられることはすごいと思う。

私は饗場先生への質問の多さに驚いた。その内容も政治や戦争のことなど現代の若者が興味を持っていないと思われることについて関心を持っている人が多かったからだ。興味を持たれていないわけではなくみんなちゃんと考えているんだなと思った。私もその一員として、しっかり考えていかなければならない。

平井先生の問題提起を見て、地方は娯楽が少ない点や、行政やインフラのコストが大都市圏と比べて高いなどの理由から、徳島の地域活性化は難しいことが分かった。テレビで議員による、暴言や野次を聞いているとこんな人達が日本のトップにいることにあきれる。最近、加計学園問題についてニュースが多いが、**本当に重要なのか**、もっと重要なことがほかにあるのではないのかと思う。日本は国外のニュースが少ない。

コメント [y164]: 重要でしょう。日本の国家権力のトップにいる人が、国家権力を自分の友達のために使うような人間か否かが問われているのですから。

今回の授業ではまとめのディスカッションを行った。今回のように先生同士や先生と生徒でのディスカッション形式の授業はとても有意義である。これまでも授業コメントを提出し、コメントに対する応答を読むことで先生と学生間での対話は成立していたが、**ディスカッションでは空間を同じくすることで、すぐにレスポンスがくる。**また、専門の異なる先生からそれぞれの視点で意見を聞けることもディスカッションならではの利点である。一方で、今回のように大人数での受講では、意見や質問を出来る学生に限られるという欠点もあるが、他の学生の質問や意見を聞くこと、そして、それに対する返答を聞き、自分の考えを持つことで大いに学習になるし、利点となり得る。したがって、ディスカッション形式での授業はとても有意義である。

コメント [h165]: ありがとう。

今回の授業では、授業のまとめと問題提起に対するディスカッションを行った。この授業の目的は、論理的思考力と多面的思考力を身につけることであり、反復練習が必要とな

る。これまでの講義では、レポートの書き方や読書のすすめ、地域貢献などさまざまなテーマについて学んできた。思考力を身につけるための反復練習の一部として、役立ったのではないだろうか。今回の講義では、問題提起の多かった地域についてのディスカッションを行った。一極集中化や東新町の開発については、学生からも意見を出すことが出来た。自分たちで根拠を持って意見を発表することの重要性を感じた。

今回の授業で都市への一極集中について意見が問われる場面があった。一極集中は経済が効率的になるが地方との格差がますます広がり自然災害で経済や情報が停止してしまう。地方を活性化させ、国として長期的な視点で見れば多極分散が良いということだ。都市の模倣をしても追いつくことは出来ないので地方の名所、特産をアピールし個性を出して行かなければならない。

今回の授業ではディスカッションのようでディスカッションではなく、先生方の討論会であるように感じた。生徒同士が話しをし考えを出せばいいディスカッションになったのではないのでしょうか？

コメント [y166]: コメント y27 を参照。

コメント [h167]: だったかもしれませんが。反省。

今回の授業では、学生からの問題提起とその応答をそれぞれの先生から教わった。私は、饗場先生に共謀罪について問題提起をしたのだが、つい先日共謀罪が成立したこともあつてか、それに関することを多くの学生が質問していたので、私が考えなかった観点からの意見を学ぶことができた。最近、ニュースでよく政治関連のことで問題になっていることが多いので、東京オリンピック・パラリンピックまでには、政府に解決してもらいたい

今回の講義はまとめのディスカッションであったが、主に平井先生の扱う地域貢献についての内容だった。私はこれまで地方の過疎化が問題だ、地域活性化が必要だという考えだった。しかし、以前の講義で地方の活性化に話が及んだ時に、山口先生が地方の活性化、人口増加がいいことばかりではないとおっしゃっていた。その考え方を聞いて私は確かにその通りだと納得し、自分が今まで何の根拠もなしに、周りがそう言っているから、地方の活性化をすべきだ、人口を増やさなくてはという考えを持っていたことに気づいた。そ

のことに気づき、あらためて地方問題を考えると、私は何のために地域活性化が叫ばれているのか分からなくなった。ある程度人口が集中していると様々なメリットがある。また、個人的な意見として、私は今の生活に特に不便を感じていない。今の状況が悪化していくのではいずれ不便が生じるのかもしれないが、**現状が維持できるのであれば無理に地域活性化**をする必要はないのではないだろうか。

今回の講義はこれまでのまとめディスカッションであった。これまでレポートの書き方や総合科学での学びについて、読書の勧めなど様々な講義を受けてきた。この授業のまとめとしては、自分の主張に客観的根拠をつける論理的思考力・自分の立場とは反対の立場を検討する多面的思考力を身につけることが目的であった。なぜそれを身につけなければならないのかというと、民主主義とはすべての国民が賢くなければならないという無茶苦茶を要求する制度で、その無茶苦茶を実現するのが大学の社会的責務であるからである。

この授業の目的として、**論理的思考力・多面的思考力があげられているがさほど身についた気がしない**。確かに、多面的思考力はみんなのコメントをみて様々な意見を知ることです少しは身につくことができた。しかし、論理的思考力は「このようにして客観的根拠をつければよい」と言われただけではなかなかできないものである。少し言われただけでできるのであれば、初めからできる人が多いであろう。人数があまりにも多いので一人一人じっくり教えるのは不可能なのは仕方ないことであるが、論理的思考力を身につけることが目的であるのならば、もう少し工夫して取り組ませてほしかった。

今回の授業では、大都市への一極集中の問題や、徳島県の活性化するにはどうすればよいのかについてのディスカッションをした。

まず、大都市への一極集中の問題について考える。私の地元の淡路島と同様に、徳島県でも就職するために都会へ行く若者が増えてきている。しかし、徳島県は仕事からの平均帰宅時間が全国一位、**(最短)**というデータもあり、のんびりと過ごすには最適の場所である。大都市へ行って仕事に追われて残業続きの生活をするよりも、早く帰って自分のしたいことをしたり、家族と過ごす時間を大切にしたりする方が、心身の健康を保つことができると考える。なぜなら、残業をしていると、睡眠不足になったりストレスがたまったりして、精神疾患にかかってしまうリスクが高くなるからである。

次に、徳島県の活性化について考える。徳島県では、とくしまマルシェやトモニ SunSun マーケットなどを定期的に開催し、地元の食材などの PR をしている。これらのイベントを通して、人との関わりを深めたり、買い物を楽しんだりすることができて、とても効果的

コメント [h168]: 今後少子化はますます進むことが予想されていて、「現状の維持」は難しいです。それでは、どの様に持続可能な社会を作っていけばよいのか、それが地方-日本にとって大きな課題になっています。

コメント [y169]: 「地域活性化」ということで、多くの人が具体的にどんなことを考えているのか、何が問題だと考えているのか、そのあたりをきちんと整理しないと、有効な対応はできないでしょう。

コメント [y170]: コメント y39 参照。

だと思うので、より多くの人にこれらのイベントのことを知ってもらうために、私たち大学生が県外の人たちに宣伝をしていく必要がある。

コメント [h171]: これからの時代は、SNSの世界かも知れませんが、正確な情報の発信・収集が必要です。

依岡先生宛の「どうすれば学生が本を読むようになるか」の質問が印象に残った。読み聞かせなど子供が本に触れる機会を増やす。学校の図書館を充実させたらよい。同じ課題図書を読んだ人の交流の場を作る。先生や友達に良い本を紹介してもらおう。取りつきやすいものから読むようにする。毎日少しでも読書を習慣にする。等回答があったがそのどれもがすでに実施されている、もしくは学生の自主的な読書を期待するもので直接的な解決には至っていない。読書が強要されたとしても意味のあるものであるなら、読書レポートのような課題を定期的に出し、強制的に読書を習慣化するべきだ。

コメント [y172]: なので、私の授業では基本的に教科書を指定して毎回読ませています。

地域活性化についての話を先生方から伺い、地域に住む一人ひとりの意識が変わらない限り、活性化は難しいということを改めて認識した。

徳島県民として自分に何が出来るか、ということについては、人間力を上げ、徳島に貢献するという事を挙げたい。例えば徳島に有名な観光地や産業が沢山あって、県外や海外の人が興味を持って訪れたとしても、徳島の人々が彼らに対して冷たい態度をとったり、彼らが不快になるような言動をしてしまうと、それは徳島のイメージにとってマイナスである。

また、「おもてなしの精神」という言葉がよく使われるようになったが、外からの人々には勿論のこと、職場や学校などで一緒に過ごす仲間に対しても、「ぞんざいな態度で接さない」ということも大切だ。周りの人々に分け隔てなく接する態度と、感謝や尊重の精神を忘れないこと、それらがいわゆる「人間力」の一部であり、草の根からの地域活性化につながる。観光資源が、産業が、特産品が、などと色々な「モノ」に関する議論が交わされることが多いが、地域に暮らす「人」に焦点を当てた議論を今後は増やしていくべきだ。その中には、先ほど述べた「人間力」の向上を含む教育の話も含まれるべきである。人々が各々のソフトスキルを磨くことが、長い目で見て地域を元気にする大きな要因になるからだ。

コメント [y173]: 具体的にどんな教育なのか、提案してください。

今回の授業はまとめのディスカッションを行なった。私は平井先生の授業について問題提起をした。それは、「大学生の間に地域に対して何ができるのか」ということである。全

体的に明らかに平井先生宛の問題提起が多かった。確かに共謀罪のことを考えるよりも過疎化の問題のことが身近に感じるから選ぶ人が多いのかもしれない。先生方のパネルディスカッションを聞いていると「大学はその地域や行政に比べると後追いになっていることやモデルしか作れない」ことを言っていた。確かに行政のように活動するための資金があまりないことやその地域の人のように地形や伝統のことをあまり知らないのそうなるのかもしれない。では、私たち大学生には何もすることはできないのか。平井先生は「主体的に考える。外の世界を見る。」ことを言っていた。私は徳島出身で県外や国外にあまり言ったことがなく外の世界をあまり見たことない。だから、この大学生の時代に各地に行ってみたい。そして、都市と地方を比較研究する中で自分の立ち位置を考えていきたい。そして、自分が将来地方にできることを探すつもりだ。また、今回は饗場先生の話について興味を持っていた人にとってはあまり興味のない話題かもしれない。

コメント [y174]: ぜひ「トビタテ！」に応募してください。

コメント [h175]: 期待しています。

今回の授業ではこれまでのまとめということで、総合科学入門講座の復習とまとめディスカッションが行われた。

今回の授業の中でマスコミの報道にはフィルターがかかっているというものがあつた。確かに、政府から圧力がかけられているのではないかというような報道の仕方や、逆に、政府のすることの全てを批判するようなマスメディアも存在する。マスメディアの役割は政府の監視だ。政府が暴走しないように、政府の行動を国民に知ってもらわなければならない。だから、政府がマスメディアに圧力をかけて報道を規制することは許されない。一方で、マスメディアには政府寄りの主張をする機関や、逆に政府を批判する立場をとる機関があつても良い。国民に事実だけを伝えて、自らの主義や主張を確立させるのは難しいからだ。1つの考え方を提供するという意味で、メディアが政治的立場を明確にして主張することは悪いことではない。そして、この場合、国民は1つの媒体から情報を取り入れるということは避けなければならない。

コメント [y176]: まったくそのとおりです。

今回はまとめディスカッションということで、今までの教員に向けられた質問に対する生徒交じりの意見交換の場であつた。授業自体は、私も質問した平井先生への地域問題に関することで幕を閉じたが、その中で非常に興味深い話があつた。実際にシャッター街の近くに住んでいる学生の貴重な意見である。私も何度かシャッター街を通り、目にしてきたが実際にどんな感じで日々を過ごしていて、何を感じているのかは分からない部分が多かつた。その学生は開発の白紙撤回をただけで、行政はそれ以上動いてないことを問題視していた。私もその意見には納得がいくものであつて、実際行政がどのような地方創生

に対して動いているのかということの可視化することが必要であると考え。なぜなら質問をした学生のように疑問視する人もいるし、ヤジを飛ばす人も出せないからである。私は今回の授業を通じ、平井先生にある疑問を投げかけたい。徳島はシャッター街の活用方法を考えているのだろうか?またその土地の所有者はなぜ今も閉まったままの店を所有し続けるのか?それに対し大学側は何かアクションを起こしているのか?ぜひ教えていただきたい。

ディスカッション内で話題に出た、地域活性化事業を積極的にやるべきなのは地域住民だという話は意外だった。こういった事業には住民以上に強い力を持ち、企画を実行することができるリーダー格が必要だと考えていたのだ。

街の清掃なら地域住民のボランティアで可能だが、地域活性化イベントは住民だけでどうできるものではない。前回のコメントでシャッター通りのデザインを提案したが、それもいち住民が呼びかけたところで塗装のための集金が必要になるし、そもそも塗装を誰が実行するかなど、まともならず実行にも移せない可能性があるのだ。

もし地域活性化事業を地域住民が主体で行うべきとするならば、まずは地域住民が一体となって行動できるよう結びつきを強めることが必要とならないだろうか。お互いの心の距離が遠ければ、共同で何か行おうという意識もまともない。

そしてまとめるためには誰かがリーダー格となり先頭を切っていくのが有効だ。ならば誰がそのリーダーを務めるのか。よほどリーダーとして適任だと自覚している地域住民でない限り、誰も立候補はしない。責任が伴ってくるからだ。するとやはり、行政が主体となって地域イベントを開催するなどのきっかけを作らなければならないのではないかと。

単純に行政は後手に回るから有効でないという意識を持ち続けることが、今日行政の行動を後手に回している要因の一つにあるだろう。

まとめのディスカッションでは徳島の社会問題が多く取り上げられた。徳島の地域課題や地方活性に向けてのアプローチについて 4 人の先生それぞれが意見を出し、学生も参加することでより理解を深めていった。

西新町の開発について言及されたが、西新町のみではなく市内全体を見通したアプローチをする必要がある。車社会の徳島県では市内の交通環境は不便である。それを改善することがまず必要であると考え。

コメント [h177]: 国や県・市も、これまでも様々な中心商店街活性化策を講じてきましたが、その一方で「規制緩和」策と称して、郊外への大規模店舗の立地を促してきました。すなわち、大規模商業資本に押されて店舗の立地規制を緩和した結果、従来の駅前・中心商店街がシャッター街化してきたといえます。まさに、経済政策の二元性がもたらせた功罪は大きいです。そうした中で、地元商店街の地元資本の中には、大型ショッピングモールなどに店出し、結果、地元商店街の衰退を加速する動きもあります。そういった意味で、商業地転換は複雑で構造的で、商店街の活性化に関心のある方は、ぜひこうした現実的な動向を関連授業で学んでください。

ちなみに、こうした商店街活性化に関しては、総合科学部の先生方も直接的・間接的に関与されています。

コメント [y178]: コメント y1 と、y45 も参照。

コメント [h179]: もちろん、地域リーダーの育成は必要ですが、これまで行政側がこうした人材育成を行ってきたことの意味は大きいです。総合科学部の人材育成の一つには、将来、(住民として、あるいは行政サイドとして) 地域活性化に携わる人材の育成を掲げています。もちろん、学生時代から積極的に地域活性化に携わることで、そうしたノウハウを将来活かすこともできるかと思います。ついでに言うならば、就活時にはそうした取組活動やノウハウは高く評価されると思います。

コメント [y180]: 具体的にどうすればよいですか?

今回の講義は、今までのまとめの内容だった。中でも一番多く問題提起されているのが平井先生の地域関係だった。それほど多くの人が今の徳島に関心があるということだが、ずっと徳島にいて徳島の地域貢献を考えるよりも一度県外に出てから徳島を見つめなおす方がよいという意見もあった。

過疎について抗えないという意見の中で、一極集中の方が行政やインフラのコストが少くないという意見があった。確かに交通費の面やアクセスの利便性からは非常に効率がよい。しかし、一つの都市に全てが集まるということは、その都市に重大な事が起きれば全ての国の機関や金融が止まるということでもある。最も危険とされている関東圏の首都直下型地震は1923年を最後に発生しておらず、地震の周期からみてここ数年に発生する確率が高い。もし東京が壊滅的な被害を被れば日本の機能全体が止まりかねない。だから私はこの意見には反対である。

今回は、学生たちがあげた疑問や質問を参考に、先生たちが、意見を述べた。その中で、平井先生が述べた、徳島のかかげているスローガンである「VS 東京」が印象に残った。私はこの「VS 東京」というスローガンに以前から違和感をかんじていた。なぜ、徳島を東京と比較し、東京に負けじとするのだろうか。東京と徳島の魅力は随分と違う。しかしながら、徳島は東京にくいつこうとする。大変無駄なことである。徳島は東京と比べ、人口も違えば、それゆえに経済的にも大きな違いがある。にもかかわらず、東京に負けまいとしようとするが、どんなにイベントを頑張っても、経済的理由から、東京に比べると規模の小さく、クオリティーの低いものになってしまう。第一に、徳島は東京と比べる必要などないのだ。「どこかと比較する。」「どこかを目標にする。」というのではなく、「**どことも比較しようのない徳島の良さをアピールすれば良いのである。**」徳島には、美味しい食品、綺麗な自然など、東京が持っていないものをたくさんもっている。こんなにも良い徳島をなぜ、東京と比較するのか、徳島の掲げるスローガンが根本的に方向性を見失っている気がして仕方がない。

今回の講義ではこれまでの講義の内容を確認して、学生からの問題提起に対して先生方が答えるという形だった。また、ある課題について先生方がそれぞれの視点から多面的に考え、学生とディスカッションを行うというものだった。主にディスカッションされたのが地方の過疎化、シャッター商店街などについてであった。

今回の講義に対し1つ意見があります。私は地域課題について問題提起をして、それに

コメント [h181]: 何も（地元以外の）県外に就職しなさい、といっているわけではありません。在学中にも見学を見て回ったり留学することもできます。そうした体験は、大学時代でないとなかなかできません。就職してからでは限定されます。

コメント [y182]: コメント y34 参照。

コメント [h183]: 読点を入れると、文章は読みやすくなります。

コメント [y184]: 他の何人かの学生さんが取り上げています。このファイル内で「VS 東京」を検索すれば見つけやすいです。

コメント [h185]: 同じことを言っているようです。「どことも比較しようのない」というためには、他県・他地域と比較して、徳島が一番であることを証明しなければなりません。

ついて取り上げてもらったのは良かったのですが、地域課題のディスカッションだけで終わってしまい、他の問題について提起した学生が満足できない講義になってしまったのではないのでしょうか。

コメント [y186]: 時間は有限ですから、「全員が満足」というのもなかなか難しいですね。

私は徳島県が自宅への帰宅平均時間が早いことについて、先生方の意見をお聞きしたいです。帰宅時間は早くても帰宅してからの消費活動が少ない。イオンモールでアルバイトをしているが、平日の買い物客は少なく商業施設を作るという町おこしの方法では徳島の活性化は厳しいのではないかと。多くの人が阿波踊りの連に所属し平日、練習があるという事実を利用した町おこしを考えてはどうか。

コメント [y187]: 着眼点は面白いと思いますが、具体的にどのような町おこしですか？

今回の総合科学部入門講座は今までの授業の振り返りだった。4人の先生方が前で生徒からの質問に答えるという形式だったが、今までの授業の中で一番自分の興味関心がもてる授業だった。

コメント [h188]: ありがとう。

東京一極集中についての話が上がっていたが、私は一極集中は止まらないと考える。縦の空間を使おうと高層マンションが増えていくだろうし、その高層マンションを建てるための技術も日に日に進歩していつにいつ進んでいるからだ。住むところがあれば、人は増えていくだろう。

また、私が理不尽だと思ったのは、最低賃金が徳島が716円、東京都が932円と216円も差があるのに関わらず、チェーン店の商品やホビー品や雑貨などは同じ値段で売られていることだ。確かに家賃などは安いがかような部分も直していかなければ、地方に住もうと思っても住みにくい。今の徳島では最低賃金の改訂などは難しいのでしょうか??客数が違うなどの問題もあると思いますが、上手く取り計らうことは出来ないものか。

コメント [h189]: 地方への輸送費で相殺されるのではないのでしょうか。

コメント [y190]: 家賃が安いというのが一番大きな理由です。全国の労働組合では、「最低賃金1,500円」を目指して運動しています。

今回の講義では、まとめのディスカッションが行われた。地域創生についての議題で話し合いが行われ、先生方のそれぞれの考え方からの意見を聞くことが出来た。

地域の活性化を図るには、行政に頼るのではなく、住人が自ら活動をはじめることが有効な手であるという話は、ほかの授業で実際に地域に住んでいる人から聞いたことがある。その方は、自ら水力発電の装置を設置し、エネルギーを自給自足する生活をしながら余ったエネルギーを売るという仕組みをつくることで地域を活性化しようとしている。河川の使用許可を取るなどの役所とのやり取りが大変だったそうだが、設置できれば地域の収益

はかなり増えるらしい。住人が動いたからこそ、できたことである。

これは山間部などだけにとどまらず、徳島市内でもあてはまることである。授業中話に出たシャッター街も、住人が行動を起こさなければ活気づけることは出来ない。私たちも、若者なりの発想でどのような活動が地域活性に繋がるかを考え、行動していかなければならない。

コメント [h191]: この発想が大事です。我々のようなロートルには難しいです(笑)。

今回のディスカッションは、日本での海外労働者のお話が1番衝撃を受けた。日本は海外労働者を受け入れようとしているのにきちんとした給料を払わず、低賃金で労働させているのだと知って他人事ではあるが、たいへん恥ずかしい。少子化が進んでいく将来、労働力の確保のために海外労働者は非常に鍵となってくるはずなのににもかかわらず、ましてや日本に来て不安もたくさんあるはずであるのにこの仕打ちはあんまりである。日本の有力な技術者が中国等に高給料で引っこ抜かれてしまうのは、やはり日本の労働環境も大きく起因している。経済力が次々と他国に負けている中、日本は労働に対する考えを根本から変えていかなければならない。

コメント [y192]: コメント y41 参照。

今回の授業では、前回の課題でそれぞれの先生に質問したものの回答を聞く授業だった。特に平井先生に対する質問が多買ったのが印象にのこっている。また、地域活性についての話題が多く、徳島の地域活性にみんなが積極的に眼を向けていることがわかった。また、大都市圏などで就職を考えている人も大変少ないことに驚きを感じた。徳島大学では地元を大切にする姿勢を持つ者が多いのだとわかった。

コメント [h193]: 「労働」だけでなく、おそらくこれからは、「生活の豊かさ」や「地域の価値」などについての見直しが必要かも知れません。すなわち、いつも言われる「新たなパラダイムシフト」かも。

私はある問題について一人の専門の先生だけが答えるのではなく、あの場にいた先生方全員が意見を出したほうがより多くの視点で問題を見ることができただろう。総合科学部の特徴でもある分野の融合があまりできていなかった。一人の先生だけならネットでの返信を見ればいいので(その場その場で出た質問に対しては無理だが)「確かにそこはわかりませんがでもここはこうじゃないですか?」等の質問に質問がつながるようなのを期待していた。饗庭先生は遅刻をするし、パソコンばかりを見ていて話を聞いているように見えなかったので残念だった。ディスカッション(討論)というよりは質疑応答といったほうが正しかった。また、地域貢献に話が偏っていて読書に関することや、犯罪件数の問題がほぼ聞くことができなかったのが残念であった。ただ、学生の地域貢献したいという意思がリアルに伝わ

コメント [h194]: 総合科学部の特徴かも知れませんね。それゆえ、(地元も含めた)地域を客観的に見つめる眼を育てて欲しいものです。

コメント [y195]: そのようにしましたが？

コメント [y196]: 事前に配布した授業の資料を見ていたようです。

ってきたこと、徳島県、徳島市がうまく地域のことを考えられていないことが県民にも伝わったのが良かった点であった。

コメント [h197]: 皆さんのこうした思いがあれば、地域の未来は開けるかと期待します。

近年、地方創生のための多くの政策が行われているが、大きな成果は出ていない。経済的な合理性から、都会へ人口が集中するのは自然の流れである。その流れを無理やりせき止め、いきなり定住者を増やすことは難しい。そこで、定住者ではなく、数週間や数か月など一定の期間そこに住んでもらう、流動的に人を受け入れる体制が必要になのではないだろうか。観光ではなく、何かの目的で一定期間滞在してもらうことで、地域の人口を増やす。

例としては、古くて利用されなくなった会館を改装し、劇場として利用するようになった城崎アートセンターが挙げられる。公演するだけでなく、稽古場として滞在する設備があり、国内外の多くの劇団のアーティストが数か月間滞在する。いまでは有名なアーティストが地域の人々と共に暮らす豊かな街になっている。

コメント [y198]: 神山などでもアーティスト・イン・レジデンスの試みはやっている。

ヨーロッパでテロなどの問題が起こっているように、グローバル化しているといっても移民を受け入れることはなかなか難しい。このようにアートであったり、何か自然をいかした事業などで、気軽に地方に滞在することが出来るようにする。そして地域の魅力を国内外に発信してもらうことは、地域の活性化に繋がるのではないだろうか。

今回の授業はよくわからなかった。
先生方の話が長くて生徒の話が少なかった。

今回の授業では、まとめディスカッションとして先生方が学生の質問に対して答えていた。出てきた質問の答えを自分なりに考えていたが先生方の解答を聞いているとなるほどと思うところが多々あった。この授業を通してやはり多面的な視点から物事を考える力が非常に重要となってくることが分かった。であるので、この大学 4 年間の中で多面的に物事を考え答えを導き出す力を身に付けたい。

コメント [h199]: 「総合科学」の真骨頂です。

今日の総合科学入門講座では今までの講義を踏まえたディスカッションを行った。主に

よし森先生と平井先生による地域間での課題について話し合い、私の問題提起した饗庭先生のディスカッションまで時間が間に合わなかった。

しかし、ほかの生徒が提起した問題には地方に当てはまる、徳島出身者の自分にとっても絶対に無視できない課題が話し合われており聞いていて自分の将来の仕事が持つあり方の参考になった。

例えば、地方の人口減少問題について話しているときほとんどの生徒が地方人口は都市部に吸収されていると考えており、また、地方人口の減少は悪いことなのだという捉え方をしていることがわかった。確かに都市部への人口は集中しているが、統計で見ると大阪府も最近人口がマイナスになっている。それに、東京都も都内の大学に進学するのはほとんどが都市圏以外の出身者でありむしろ都内出身者は県外へと行く割合が高くなっている。よって人口が流出してしまうこと自体は避けられないしそんなに悪いことではなく、逆に言えば人々が自分の県内から動かなくなってしまう方が日本の経済循環や地域活性に滞りが生じてしまうと言えはしないだろうか。

自分の生まれた土地のことを好きになるかならないかは自由だが、何も知らないままに県外へと去ってしまうことは最も地方の不活性を促進させる。

これらを踏まえると、人口流出を防ぐことは不可能でも人々がどのように県外へ渡り、いかに自分の故郷をアピールするかが私の将来の課題となった。

今回の講義は、主にディスカッションだった。

まとめのディスカッションをすると聞いた時、学生だけで討論するのかと思っていたが、先生方のお話をもとにそれに対する意見や質問を学生が言うという、今までにない新たな進め方だった。中でも印象に残ったのは徳島が宣言している「VS 東京」についての意見だった。私はこれまで徳島が東京に勝てるはずがないと思っていたが、消費者庁が新拠地として徳島に移転するという話を聞いて、徳島も大都市に対抗できるのではないかと感じた。

今回の講義では事前に学生から募集していた様々な問題提起に対して先生方と共にディスカッションする、というものだった。学生から提起された問題は今まで講義を受けた先生方に向けたものであるため、レポートの書き方、総合科学部、読書、民主主義、地方創生、などに関する多くの分野に関する問題があったが、その中でも今回は地方創生に関するテーマでディスカッションが行われた。教室の最前列に先生方が座り、意見がたくさん飛び交っている様子は聞いていてとても面白かった。なぜなら同じ地域創生というテーマでも専門分野の違う先生方の視点から生み出される意見はそれぞれ異なっているからであ

コメント [h200]: 心強いです。

コメント [y201]: 「常識」に反対の立場を立てるというのは大変結構です。なぜそうなるのか、根拠を示しつつ論じましょう。

コメント [y202]: コメント y27 を参照。

コメント [h203]: ありがとう。

る。しかし私は初め、先生と学生がディスカッションをするのだと予想していたため、序盤は先生のみ発言だったことに少し驚いた。

今回の講義で私が一番印象に残ったことは、政府・企業に次いで大学が最後に行動を起こす集団である、ということだ。確かに今までの講義を受けた後の授業コメントで提示されていた学生の意見は、自身のもも含めてどれもが政府の政策を推し進めるような意見であった。これはまだ私たちが大学で学び始めて日が浅いからなのだと考えていたが、今回の講義により、まず大学という組織自体が政府の後追いをしているのではないかとこの考えが浮かんだ。第一に大学とはどういう場所なのかをもう一度考え直して私たちは学んでいくことが必要なのだ。

私は今回発言をすることはなかったため、発言をしていた数名の学生には尊敬の念を抱いた。既に大学に入学して三か月も経っているが、私は物事に対する疑問や批判を持つことが苦手である。それは未だに講義を受け身の姿勢で受けている可能性や自分の中に反論材料となるほどの知識がないことを示している。自分も公の場で堂々と意見を発表できるようにしたい。そのために講義や本の内容に感心するばかりでなく、どこかに引っ掛かりを感じるようになるためには何が必要なのだろうか。読書などから知識を取り入れるなどの方法以外で、良い方策があれば教えていただきたい。

総合科学入門講座のまとめディスカッションでは今までの講座の元、先生や受講者たちが習ったことのまとめから疑問に思ったことを質問していき、解決策やそれに行き着くヒントを貰った。

気になったことではあまりみんなが手を挙げて発表していなかったので大学生らしくもっと自発的に発表していかななくては行けない。

今回のまとめディスカッションについてだがまず、一つのテーマで終わってしまったことは非常に残念だ。実際に生の教授たちの意見を聞ける機会であるので、すべては無理であるということはわかる。しかしながら、二つほどはテーマとして挙げてほしく非常に残念でならない。

今回の講義については、主に地域創生についてであった。私も事前質問としては挙げなかったが、大学と地域創生については興味がある。しかし、教授たちがおっしゃる通りに大学は地域創生のモデルを提供できるが、実際行動するかどうかは地元に住む人たちである。もちろん学生や教授、市の職員とが行動しようとする住民との衝突も起こる可能性もある。つまりは、当たり前のこととも考えられるかもしれないが、住民が行動しなくて

コメント [h204]: 大学という重大な発見や先端的な技術開発を思うかも知れませんが、これらはおもには理系分野です。人文・社会科学系の場合には、むしろ政府や行政が行った施策を「検証する」ケースが多く、検証には時間を要するため、その意味では行政側に先んじて我々人文・社会系の研究者が何かに取り組む、ということは少ないかも知れません。もちろん、発掘や貴重資料の保存など、人文・社会系でしか取り扱いえないテーマも多々あります。

コメント [y205]: 読書は基本です。なるべくたくさん読んでください。あとは、新聞を読むこと。それから、留学に行くこと。ぜひ「トビタテ！」に応募してください。

コメント [h206]: 後期の課題発見ゼミナールでは期待しています。

コメント [y207]: 他の学生さんからは、ディスカッションの会を二回にしては、という提案がありますが、どうですか？

は、地域創生は進まない。平井先生のおっしゃる通り、いくら大学が提案したとしても、住民が納得しなくてはただの無駄なのだ。また、平井先生や葎森先生のおっしゃっていたが、**大学関係者などは、その地域に留まるということはあまりできない。**そのため、提案をしたところで、住人の人たちから反感を買うであろう。

では、私たち大学生は地域創生において何ができるのだろうか。

まず一つに滞在生活というものがある。日帰りで調査をしてそれで問題点を出し提案をする。確かに現地に赴かないよりはまだ良いのかもしれない。しかし、住民から反感を買う理由の一つにまず、目線が違うということがある。目線とは、その場所で生活をしたことによる目線ということだ。つまり、目線を住人に合わせることによって見えてくる問題もあるのだ。大学生には夏休みという時間がある。確かに何年も住民のように住むことはできない。しかし、一か月という時間なら夏休みを使えば可能である。実際に生活を送ることは、研究データとしても非常に大きなものだ。また、目線を合わせるによって、客観性の中に住民的な、生活したからこそその難易度を含めた提案を出せる。

二つ目に、自分の地元でない人が、地域活性化に協力したほうがいいということだ。確かに、地元を再興したいと考える人は多いだろう。もちろん自分も地元の再興をしたい。しかし地域活性化においていえば、地域の目線ともう一つに重要なのが、他の地域から見た、つまり来客目線ということである。特に私は、地域活性化の人材として、その地域に住んでいないというくくりだけでなく、県外から来たという本当に全くの地域情報を持ってない人が最適だとする。理由としては、確かに地域から見た限界というものは存在するため、実際生活するということが重要だ。だが、地元の人の意見ばかり聞いてもそれはいつまでも、その地域の魅力は引き出せない。そこで、全く知らない地域から来た人の視点から見てどこに魅力を感じるかを提案すること、つまり客観性が必要なのだ。

今回の講義においてテーマであった地域創生について、教授たちが「住民たちが動くことが重要だ」とおっしゃっていたが、大学側も**学生生徒たちが主観性と客観性を持つこと**で研究協力の幅が広がるはずである。

コメント [y208]: 大学教員も地域住民の一人ですよ。

コメント [h209]: 上述したような目線での検証も求められます。

今回はこれまでの授業を振り返って、先生へ問題提起や質疑応答を行った。

私はブランド化について興味がある。東京の銀座といえば高級、京都といえば厳かで落ち着いた和というような一般的イメージがある。確かに実際その通りの事実もあるが、ではこのようなイメージとはいつから私達の中に植え付けられたのだろうか。またブランド化から得られる付加価値について学びたい。そしてその学んだことを企業で活用するために、大学で調査、研究、実践と経験を積みたい。

そのために心理学、経済学と幅広い分野を学ぶために総合科学部を受けた。総合科学部では他の学部と違い、1年次はコース分けがされていないため専門的な知識や技術について

学べていない。高校よりももっと積極的に、**信頼し頼る先生がいないため**より自主的にならなければならない。

コメント [y210]: たいていの先生は教育熱心ですから、積極的にコンタクトを取って、信頼できる先生を見つけてください。

今回の授業では、まとめとしてディスカッションをした。学生のした問題提起に対しての質問と応答をいただいた。

この総合科学部での総合という意味はあまり広すぎても自分たちで対応出来ないし、狭すぎても総合という意味を果たせない。だから、**今のように地域問題や共謀罪などいくつかのテーマに絞って、問題の解決策を見出していくという研究**になっている。

コメント [h211]: こうしたスタイルを心掛けて下さい。

今回の授業はまとめディスカッションだった。今までこの授業でレポートの書き方や民主主義、総合科学部、読書、地域についてなど、様々なことを学んだ。中でも私が一番興味を持っていたのは地域についてである。授業を通して自分にとって身近な地域の問題について考えることができた。

今回の授業は先生方のお話为中心で、あまりディスカッションという感じではなかった。何人かの発表した学生は自分の意見をしっかり持ち、そのうえで疑問に思ったことを発表できていてすごいと思った。

コメント [y212]: コメント y27 参照。

今回の授業は、これまでの授業の総まとめといった「まとめのディスカッション」が行われた。この「総合科学入門講座」という授業の目的は、論理的思考力と多面的思考力を身につけるということにある。論理的思考力とは、自分の主張に客観的根拠をつける力のことであり、説得力のある文章を書くために必要とされる能力だ。多面的思考力とは、自分の立場とは反対の立場を検討する力のことであり、物事を複数の立場から考えるときに必要とされる能力である。双方とも、反復練習をすることが最も重要である。我々は民主主義のなかでそれらの能力をつけなければならないため、大学でこのような授業を行い、受けているのである。

四月から、総合科学入門講座では、本当に多種多様なテーマで授業が進められてきた。普通の学部ならば、これまでのテーマのどれか一つに集中した授業しか受けられないが、これほどにも多岐にわたって学習ができたのは、総合科学部ならではのだろう。逆に、**どの分野もある程度までしか身につけられず結局何の授業だったのか分からなくなってしまう**とも言える。大事なことは、多岐にわたりすぎずに複数のテーマを学習し、最も自分の興

コメント [h213]: この授業は「入門」(入口)です。今後、皆さんがそれぞれの課題について考え、自ら問題解決に取り組む授業も用意されています。それまでに、皆さんが各自の問題意識を醸成しておくことが大事です。何か、心に引っかかるような案件があれば、それはみなさんの「問題意識」「問題提起」になるはずですよ。

味関心のあることを見極めて専門家していくことだ。最後に、話は変わるが、毎回の授業で百をこえる数の長いレポート文章を全て読み、コメントまでもつけて次の授業で評価をしていた先生方の労力には誠に尊敬する。

コメント [y214]: そう言っていただければありがたい。

地域活性化は、まず、その地域の人々が、自分たちの地域をどのようにしたいか、という主体性から始まり、地域の人々だけではできない場合には、サポートをしてもらい、それでも難しい場合には、行政が入る、という順番になっているということを理解した。また、他の地域など、外を見ることも大事であるということも理解した。

外を見ることは大事である。なぜなら、他の地域と比べることで、自分の地域の課題を発見することができるからだ。また、他の地域と比べることで、他の地域にはない、自分の地域の良い点を見つけることもできる。この、自分の地域の良い点を知るといことは、励みになる。

コメント [y215]: ぜひ「トビタテ！」に応募してください。

また、外を見ることで、他の地域の解決策を知ることができ、自分の地域にその策を活かすこともできる。視野が広がる。

コメント [h216]: このような想いが、問題解決につながります。

このように、外を見ることで、他の地域のアイデアも参考にしながら、自分の地域に足りない点は補い、良い点は伸ばすことができる。

今回のディスカッションについて、二つ問題点がありました。一つ目は、さまざまな分野から問題提起をされていたのにも関わらず、地域の分野でしかディスカッションをしていなかったことです。地域以外の他の分野についてのディスカッションを希望していた人もいたはずであるのに、今回、このようなことがあったことは問題です。今回のようなことが起こらないように、分野ごとに教室を分けたり、時間配分をきっちりすれば改善します。

コメント [y217]: 他の学生さんから、ディスカッションを二回やったらどうかという意見がありました。どうですか？

二つ目は、今回は地域、特に徳島県内の問題についてディスカッションしていたので、県外生が質問をしづらかったことです。地域の問題提起自体が地方に寄りそったものが多かったことで、自然と徳島県内の問題についてのディスカッションになったのでしょう。しかし、徳島県以外にも、四国全体や近畿全体の問題に少しでも触れられていれば、県外生でも質問をしやすくなっていたのではないのでしょうか。

コメント [y218]: そうですか？「東新町ってどこ？なんでシャッター街なの？」とか、知らないことを素直に聞いてみるのも一つの発言では。

しかし、今回のディスカッションで複数の先生方から意見をもらったのは私にとっていい経験でした。このようなディスカッションをまたするのであれば、是非とも参加したいです。

コメント [h219]: たまたま質問のテーマが徳島に関係しましたが、これは徳島県外出身者の皆さんの地域でも起きている、起こりうる課題です。「徳島の問題だから」という意識ではなく、「わが地域」の課題として捉え直してください。

先日はまとめのお話をした。数名の先生が質疑応答にこたえていた。まとめとしては、生徒から教授に多面的に質問ができて良かった。あまり人前で話せない人も、ネットを通じることによって正直に自分の気持ちを先生のぶつけることができている良かったのではないだろうか。それらの質問を一つのフリップにして皆に提示してまとめの回にしたのはよかった。「自分以外にも同じように思っている人はいたのか」と共感できる人たちが増え、積極的に授業に参加できるからだ。

私からの提案としては、もっと多くの先生のお話を聞きたかった。二、三名の先生に話が偏りすぎていた。いままで総合科学部入門は多くの先生のお話を聞いてきた。なので、そのまとめの回では、もっと多くの先生の話を知りたい。

また、一緒に話すのではなく、ちゃんと時間を決めて、この時間はこの先生といった風に話してほしい。最初の方はそういった形式だったが途中からいろいろな先生が話し始めていて、よく分からなかった。ただでさえ、大学の先生が言っている内容はたまに難しすぎてよく理解できないところがある。なのに、同時にいろいろな先生が並行的に会話を進めると、わかる事柄もややこしくなり、まったく理解できずに終わってしまう。それは効いている私からしても悲しいことで、もっと話と話の空間を開けた、わかりやすい講義にしてほしい。

それと、マイクなしに話していた先生もいらっちゃった。それでは後ろの方の席では全く聞こえなかった。先生同士の確認の事柄であっても私たちにとっては教授の話している内容を確認するための重要なキーワードになるので、そこもしっかりとマイクを通して話してもらいたい。

また、山口先生のようにきはきと、なにか指差すものをもって話してほしい。山口先生はきはきと物事を仰っており、どこが大事なのか、重要なのかよく分かりやすい。また、スライドを下げるもので powerpoint の図を指示してくれているのでそこも分かりやすい。しかし、教授の中にはあまり抑揚をつけない先生がいる。先生の伝えたいことがどこなのかあやふやに感じる。また、図面のどこを指して会話をしているのかよく分からない。分かるときもあるが、はっきりせず、もやもや感が残るときがある。そこはできれば考えていただきたい点である。

今回の授業では、今までの授業のまとめと、生徒の問題提起に対する先生方の応答を聞いた。総合科学入門講座の授業の目的は、論理的思考力と多面的思考を身につけることであり、そのためには反復練習が必要であるということを改めて学んだ。この授業で、5人の先生の話聞き、読書や民主主義、地域課題など分野は違うが、それぞれの分野で問題を

コメント [y220]: いちおう、全員に話は振りましたが。

コメント [y221]: コメント y16 参照。

コメント [y222]: そうですね、それは失敗ですね。

コメント [y223]: 棒のことでいい。

上げ、その改善には何が必要かを考えてきた。分野はバラバラであっても、問題について調べ、授業コメントを書き、それを見直し、書き直すということこそが、論理的思考力と多面的思考を身につけるためにすべきことであり、毎週の授業コメントを通して反復練習をしていたのだということも改めて学んだ。さらに、これまでの授業の共通として、客観的な根拠の重要性が挙げられる。毎週の授業コメントでも客観的な根拠を書く練習をしてきた。なぜ、客観的な根拠が必要なのか。それは、読み手が納得し理解できるようにするためである。客観的な根拠がないと、意見ではなく感想になってしまい、書き手が何を言いたかったのかがはっきりわからない。今回の授業で見た生徒の問題提起の中にも、感想を述べているように見えるものがあった。根拠をつけると、批判的な意見であっても、そのように考えることができるのかと思うことができ、反対意見としてとらえることができるが、根拠がないとただの批判的な感想になってしまい、どう改善すればよいのかを考えることもできない。自分の意見を相手に納得し、理解してもらえるように、そして、感想ではなく意見にするために、客観的な根拠は必要であり、常に自分の考えに根拠をつけるよう意識をしなければならない。

今回、平井先生の地域課題の問題提起に対する応答を中心に話を聞いた。地域課題は、多く挙げられ、どれも重要な問題であり、しっかり考えていかねばならないものである。しかし、今回の授業は、各先生の実験分野においての問題提起に対する応答を聞く授業であると思っていたので、民主主義や読書など他の分野の話を書くことができなかったのが少し残念であった。地域課題に関する話に興味がないということではない。今回、地域課題に関して、より深く掘り下げて問題を考えることはできたとし、先生同士の会話を聞いて、考えを広げることができた。しかし、先週私は、他の先生に向けて問題提起の授業コメントを書いており、その先生の話を書くことを期待していた。その先生に直接話を聞きに行くことももちろんできるが、先週の授業コメントで、私以外にも他の先生に向けて書いた学生はたくさんいたはずであり、授業の中で他の先生の話を書く時間を設けるべきであったろう。ある特定の分野の知識を広げるために話を聞くことはとてもいいことであり、勉強になるが、今回の授業ではそれぞれの先生の話を書くことができるように、時間の配分をしっかり決め、時間を確認してほしかった。

6月23日の授業では、総合科学入門講座のまとめでした。授業に対する不満や疑問に思っていたことなど、多くの質問をしました。たとえば、徳島県を活性化させるために何をすべきかを考えました。そのなかで、「VS 東京」というのがありました。東京の見様見真似をしても仕方ないと、東京にないものを徳島県が生み出そうというものです。それは、徳島ならではのもの、徳島にしかできないことが重要な課題になってくるでしょう。以前の授業で、徳島といえば、BLUE だという授業がありました。その BLUE である四国三郎

コメント [h224]: 大変重要なポイントです。おそらく、山口先生は毎回、このことを指摘されています。

コメント [h225]: 少し力が入りました。反省。

コメント [y226]: コメント y17 参照。

の吉野川を生かした活動を期待したいです。BLUE といば、海もあります。しかしながら、海をもっている都道府県は数多くあります。だからこそ、日本でも有数の大きさを誇る吉野川を、全国に宣伝できるようなイベントを起こすべきでしょう。

今回の総合科学入門講座では、まとめとして宿題として出されていた問題提起の中から、いくつか問題が選ばれ、それに先生方が答えるという授業だった。最初に、総合科学入門講座の目的である身につけるべき技術についておさらいした。身につけるべき技術とは、論理力思考力として自分の主張に客観的根拠をつけ説得力のある文章を書くこと、多面的思考として自分の立場と反対の立場を検討し物事を複数の立場から検討することなどである。これらの身につけるべき技術は、四月からのこの毎回の総合科学入門講座の授業レポートや読書レポートなどで少しずつ身につけてきた。しかし、**まだまだ出来ていないところが多いのでこれからも継続して続けていきたい。**

コメント [y227]: コメント y39 参照。

次に、私たち生徒からの問題提起について先生方が返答してくれた。各先生の返答はパワーポイントや直接言葉で説明して頂くというものだった。私は依岡先生に対して問題提起をさせていただいたが、**今回は取り上げられなかった。**なので、自分の問題提起になにか不備があったと考え見直した。見直してみると、根拠が不十分であることがわかった。次に先生に問題提起する機会がある時は、根拠をより明確なものにしたい。また、自分以外の生徒の問題提起を見てみると、自分自身も、何故そうなのだろうか考えるような問題提起が多くあった。例えば、論文の書き方の規則はいつできたのかということや、マスコミの報道の在り方について、過疎と都市集中・地方の活性化・少子高齢化についての問題などである。今回の授業ではその中でも、特に過疎と都市集中・地方の活性化・少子高齢化についての平井先生の返答が多かった。平井先生は授業の中で、生徒が考える地方の活性化の案は行政に頼みたいというのが顕著であるとおっしゃっていた。そして、その考え方を改善するためには主体的に考える力が必要であること、その力をつける為に外の世界を広げ視野を広げることが大切だともおっしゃっていた。

コメント [y228]: それは残念でしたが、時間の都合上、というのが主要な原因です。

また、日本の単一**民族**国家論についての話も聞いた。日本はもともと多民族国家であり、明治から第二次戦争中までの大日本帝国政府も多民族国家だと言っていた。しかし、1960年代に突然に単一**民族**国家論が出てきたということを聞いた。たしかに日本の歴史を振り返ってみると様々な人が日本に入り住んでいる。私は、この話を聞くまでずっと日本は昔から単一民族国家だと言い続けてきたのだと考えていた。つまり、**一つの物事だけを信じていただけで多角的に物事を見ることができていなかったのだ。**この話を聞いたことでこのことに気づいたので、これからより広い視野を持ったり、多角的に見ることができるようになりたい。

コメント [h229]: 「単一民族国家」論については、「多角的」な意見はありますが、まずは自分で日本が単一民族なのかどうかを調べるのが先かと考えます。検証することで、自分の意見に客観性が具備されます。

今回の授業ではまとめのディスカッションであった。事前の課題で問題提起をするようになっていたので、生徒とのディスカッションも積極的に行っていくのかと思っていたが、やはり人数が多いので、先生方が議論して、答えを出すことが中心となった。これまでの先生方が集まって話をしたので、分野が違うのはもちろんのこと学術的な立場や、現実的、実践的な観点と人によって意見の方向性が違い、それを集約して結論を出していく形式で、これが総合科学部らしい、**理想的なディスカッション**なのだろう。徳島の地域問題の議論では生徒の一人が具体的な事例を提示し、問題解決のためにどうすべきかということ投げかけた。非常にピンポイントな解決の案を探り、議論が進んでいて、実践的だった。私は餐場先生に対して問題を提起していて、関連する問題でもいいから意見が聞けることを期待していたが、そんなことはなく残念だった。

コメント [y230]: コメント y27 参照